



第3期

幸手市まち・ひと・しごと創生総合戦略

(令和8年度～令和10年度)

令和8年2月 策定

幸手市

目次

第1章 計画策定の趣旨 -----	1
I 人口ビジョン及び総合戦略の位置づけ -----	1
1 「幸手市人口ビジョン」及び「総合戦略」策定の背景-----	1
2 第3期総合戦略策定の趣旨-----	2
II 計画期間 -----	3
第2章 人口ビジョン -----	4
I 人口に関する現状分析 -----	4
1 人口の推移 -----	4
2 人口動態-----	9
3 年齢別人口 -----	15
4 産業別人口 -----	18
II 将来人口の推計と分析 -----	21
1 将来人口の推計条件等 -----	21
2 将来人口の推計結果 -----	22
第3章 第3期総合戦略 -----	24
I 第2期総合戦略の達成状況 -----	24
II 第3期総合戦略の基本的な考え方 -----	29
1 国の「地方創生2.0基本構想」について -----	29
2 埼玉県の「第3期埼玉県まち・ひと・しごと創生総合戦略」について -----	30
3 市民アンケートの分析 -----	30
4 第3期総合戦略の体系 -----	33
III 第3期総合戦略の基本目標及び施策-----	37
基本目標1 安定した雇用を創出し、安心して働ける地域をつくる -----	37
基本目標2 新しいひとの流れをつくる -----	41
基本目標3 結婚、妊娠、出産、子育ての希望をかなえる -----	45
基本目標4 安心・快適に暮らすことができる、魅力的な地域をつくる -----	50
参考資料 -----	55
I 第3期総合戦略で設定した数値目標・K P I -----	55
II アンケート調査について -----	57
1 アンケート調査の概要 -----	57
2 注記 -----	57
3 アンケート結果 -----	57
III 用語説明 -----	62

目次

図 1	第3期総合戦略と他の計画等との関係	2
図 2	総合戦略・関係計画等の計画期間	3
図 3	人口及び世帯数の推移	5
図 4	高齢化率の推移	5
図 5	年齢3区分別人口の推移	6
図 6	世帯数の推移	6
図 7	地区別人口と増減率	8
図 8	幸手市の人口動態の推移	9
図 9	幸手市の自然動態の推移	10
図 10	幸手市の社会動態の推移	11
図 11	合計特殊出生率の推移	12
図 12	年齢別未婚率の推移	13
図 13	幸手市における近隣市町への社会増減の推移	14
図 14	幸手市の人口ピラミッド	15
図 15	男女別年齢別社会動態	16
図 16	年齢3区分別地区別人口	17
図 17	産業別人口（総数）	18
図 18	産業別人口（男女別）	19
図 19	年齢階級別労働力率	20
図 20	幸手市の総人口の推計	22
図 21	年齢4区分別人口割合の推計	23
図 22	「地方創生2.0基本構想」における政策の5本柱	29
図 23	アンケート結果（転入・転出のきっかけ）	31
図 24	アンケート結果（住むことを決めた理由）	31
図 25	アンケートクロス集計結果（転入・転出のきっかけ）	32
図 26	国戦略・幸手市総合振興計画と本戦略基本目標の関係	34
図 27	本戦略における施策の全体像	35
図 28	SDGs（持続可能な開発目標）における17のゴール	36

表 目 次

表 1 地区の分類と地区別人口-----	7
表 2 転入数・転出数等の上位地域-----	14
表 3 第2期総合戦略の成果指標（数値目標・K P I）に対する達成見込み-----	24
表 4 基本目標別数値目標・K P I達成見込み-----	24
表 5 第2期総合戦略の数値目標・K P I達成見込み（基本目標1）-----	25
表 6 第2期総合戦略の数値目標・K P I達成見込み（基本目標2）-----	26
表 7 第2期総合戦略の数値目標・K P I達成見込み（基本目標3）-----	27
表 8 第2期総合戦略の数値目標・K P I達成見込み（基本目標4）-----	28
表 9 指標の測定方法と記載例-----	33

注 記

- 本戦略中、各種表記について次のとおり省略する場合がある。

区分	正式表記	略記
元号	昭和／平成／令和	S／H／R
暦年(和暦)	(例) 平成28年	(例) H28
年度(和暦)	(例) 令和3年度	(例) R03年度
本戦略	第3期幸手市まち・ひと・しごと創生総合戦略	第3期総合戦略

- 本戦略中、構成比を示す箇所については、端数処理の関係により、各構成比を足しあげた値が合計値（100%）にならない場合がある。

第1章 計画策定の趣旨

I 人口ビジョン及び総合戦略の位置づけ

1 「幸手市人口ビジョン」及び「総合戦略」策定の背景

平成20年代、国内では人口減少と急速な少子高齢化が進行し、特に若年層の東京圏への流出が顕著になりました。地方では労働力不足や経済活動の停滞、地域コミュニティの衰退などが深刻化し、「このままでは地方が消滅する」といった危機感が高まりました。

そこで国は、地方に仕事をつくる（しごと）、地方に人を呼び・育てる（ひと）、住み続けられる地域をつくる（まち）、の3本柱で、東京一極集中の是正と地域の活性化を目指すため、平成26年11月に「まち・ひと・しごと創生法」を制定しました。また、平成26年12月に、人口の現状と将来の展望を提示する「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」（以下「国の長期ビジョン」という。）及び今後5か年の政策目標・施策の方向を提示する「まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下「国の総合戦略」という。）を閣議決定しました。これにより、人口減少の克服と地方経済の好循環の確立を目指しました。

その後、令和元年12月に「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」が閣議決定され、地方への新しい人の流れの創出、地域のしごとづくりと所得向上、若い世代の結婚・出産・子育て希望の実現、地域の特性を生かした地域づくりの4つが重点的に推し進められました。さらに令和4年12月には「デジタル田園都市国家構想戦略」が策定され、デジタル実装による地方課題解決を目指し、「デジタルの力を活用した地方の社会課題解決」「デジタル田園都市国家構想を支えるハード・ソフトのデジタル基盤整備」「デジタル人材の育成・確保」「誰一人取り残されないための取組」の4つの柱が示されました。

さらに、令和7年6月に「地方創生2.0基本構想」が閣議決定され、「くらしの安心」「付加価値創出」「人や企業を各地に」「新技術の活用」「新・広域連携」の5本柱が示されました。

当市においても国の長期ビジョン及び総合戦略を勘案しながら、平成28年1月に「幸手市人口ビジョン」を、平成28年3月に「幸手市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下「第1期総合戦略」という。）を策定しました。また、令和3年3月に「第2期幸手市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下「第2期総合戦略」という。）を策定しました。

2 第3期総合戦略策定の趣旨

第2期総合戦略の計画期間が満了を迎えることから、まち・ひと・しごと創生法第10条に基づき、第3期総合戦略を策定するものです。

「第2章 人口ビジョン」では、令和3年3月に改定を行った幸手市人口ビジョンについて、改めて人口の現状分析を行います。

「第3章 第3期総合戦略」では、国の「地方創生2.0基本構想」及び県の「第3期埼玉県まち・ひと・しごと創生総合戦略」の考え方を勘案し、第2期総合戦略の検証結果を踏まえた上で、市の最上位計画である「第6次幸手市総合振興計画後期基本計画」や各種計画との整合を図り、人口減少及び地方創生の継続的な取組に向けての「第3期幸手市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定します。

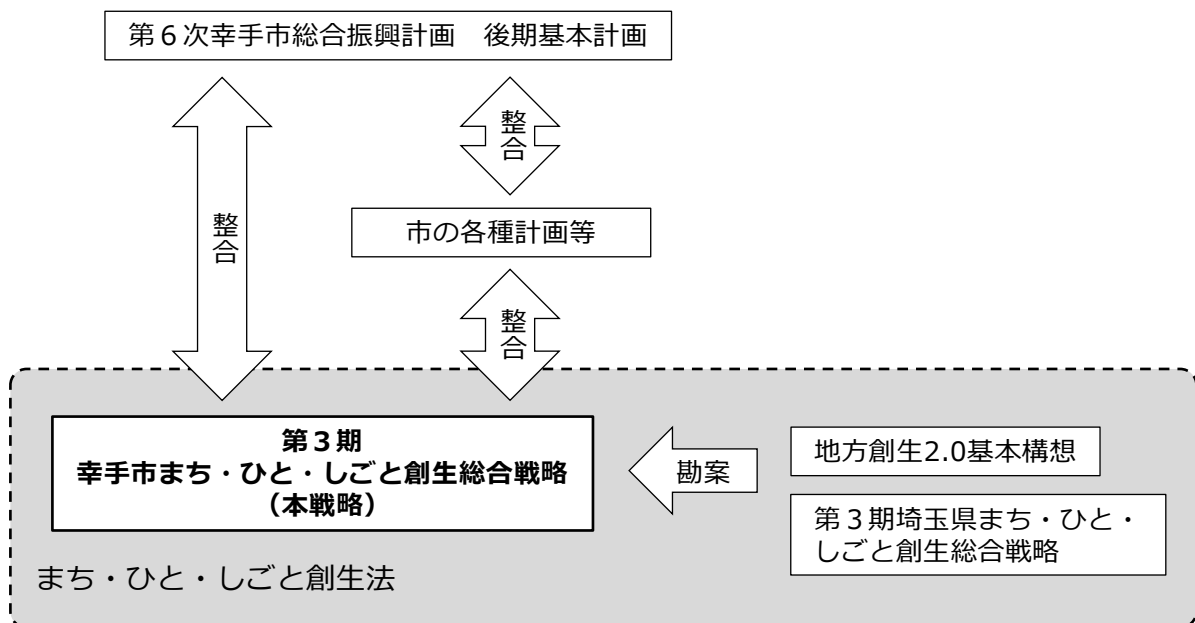
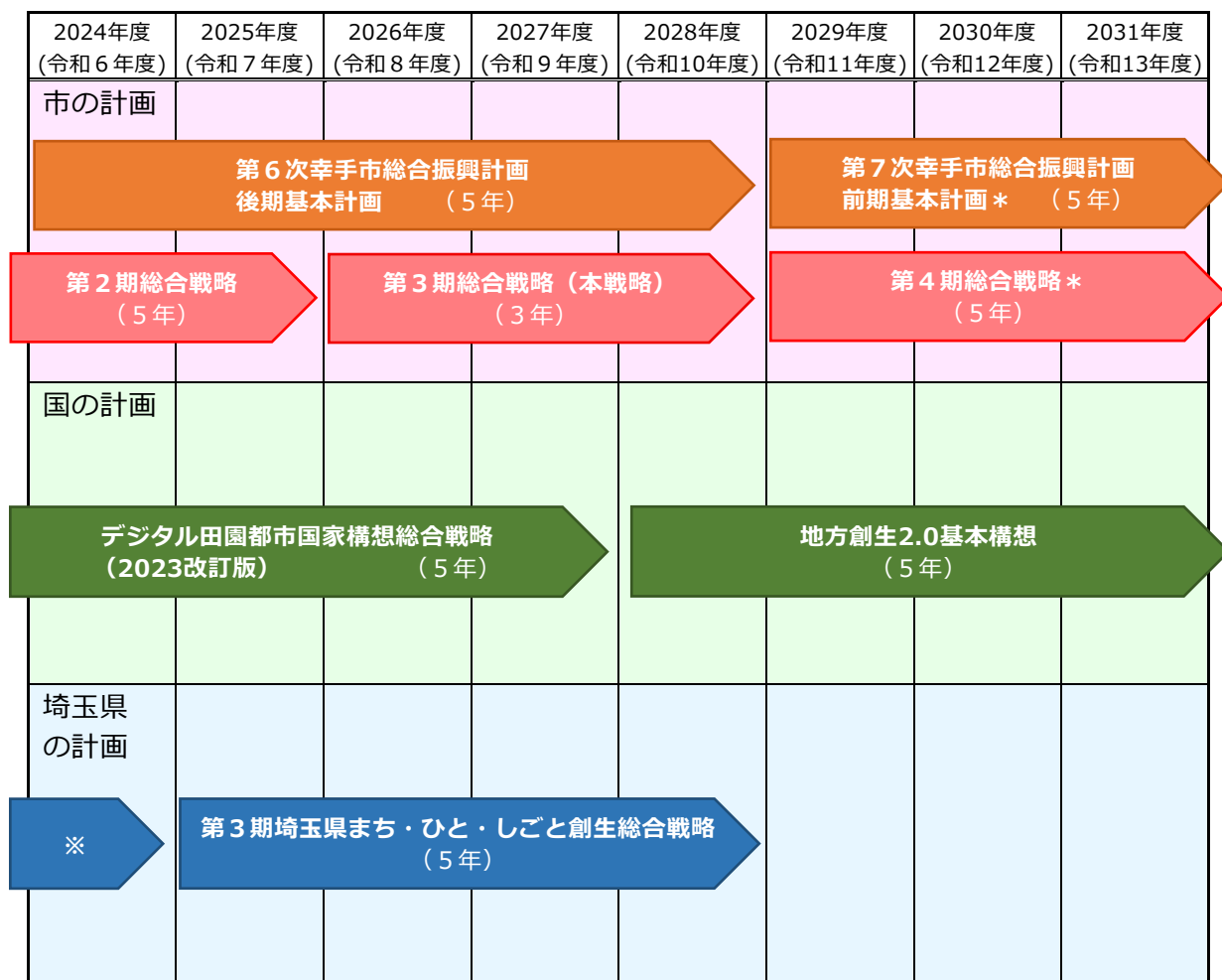


図1 第3期総合戦略と他の計画等との関係

II 計画期間

幸手市人口ビジョンの対象期間は、当初の計画期間と同じ2060年（令和42年）までとし、第3期総合戦略の計画期間は、第6次幸手市総合振興計画後期基本計画の終期と合わせるため、2026年度（令和8年度）から2028年度（令和10年度）までとします。



*の付いている計画等は、現時点での見込みであり、今後名称・計画期間が変わる場合がある。
 ※ 埼玉県デジタル田園都市国家構想の実現に向けたまち・ひと・しごと創生総合戦略（5年）

図2 総合戦略・関係計画等の計画期間

第2章 人口ビジョン

I 人口に関する現状分析

1 人口の推移

① 市の人口の推移

人口は、昭和40年以降、東京通勤圏としての宅地開発等が行われたことで、平成7年には58,172人まで人口が増加しました。しかし、その後人口減少に転じ、平成22年の国勢調査では若干増加したものの、令和7年10月の住民基本台帳人口では、48,498人まで減少しています。

年少人口¹は昭和55年の14,785人をピークに減少し、令和7年は4,185人となっており、平均すると毎年236人減少しています。

生産年齢人口²は、平成7年の42,456人をピークに減少し、令和7年は26,877人となっており、平均すると毎年約519人減少しています。

高齢者人口³は、昭和35年（1,456人）以降令和2年（17,743人）まで一貫して増加していましたが、令和7年には微減に転じ17,436人となっており、平均すると毎年約246人増加しています。

高齢化率⁴は昭和50年の5.5%から上昇し始め、令和7年10月1日現在で36.0%です。

昭和50年～平成12年は埼玉県と同じような推移となっていますが、それ以降は埼玉県よりも高い割合で推移しています。特に、平成27年度以降は、近隣市町と比べても高い割合となっています。

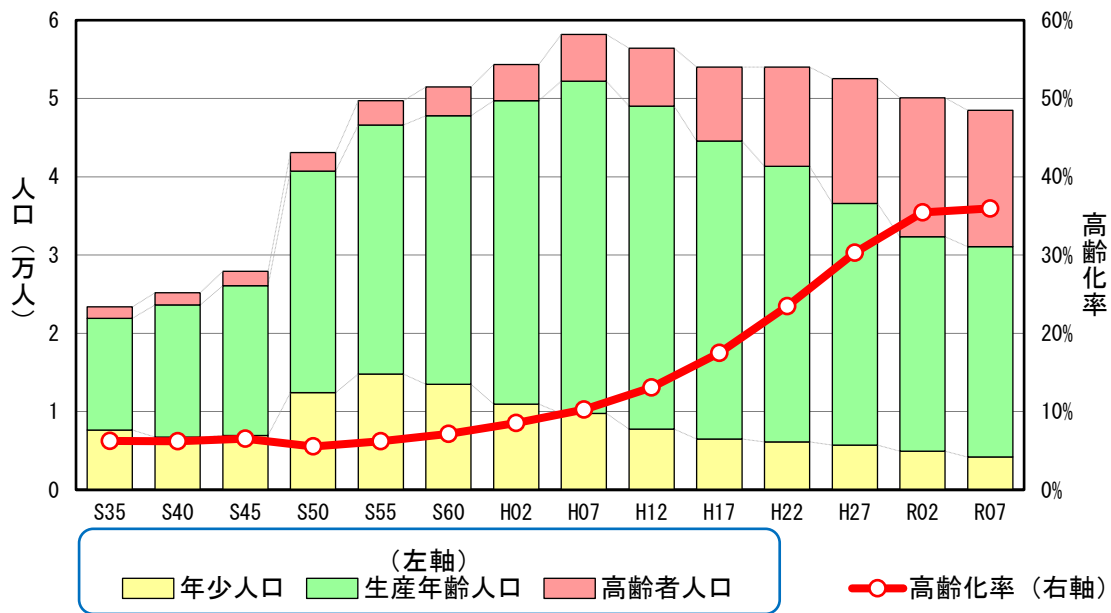
令和7年1月1日現在の高齢化率は、国内全体で29.4%、埼玉県全体で27.0%、幸手市で35.9%となっており、幸手市の高齢化率は、県内63市町村で12番目、県内40市で1番高い割合となっています。

¹ 0～14歳人口。

² 15～64歳人口。

³ 65歳以上人口。統計分野では「老年人口」と呼ぶ。

⁴ 総人口に占める高齢者人口の割合。

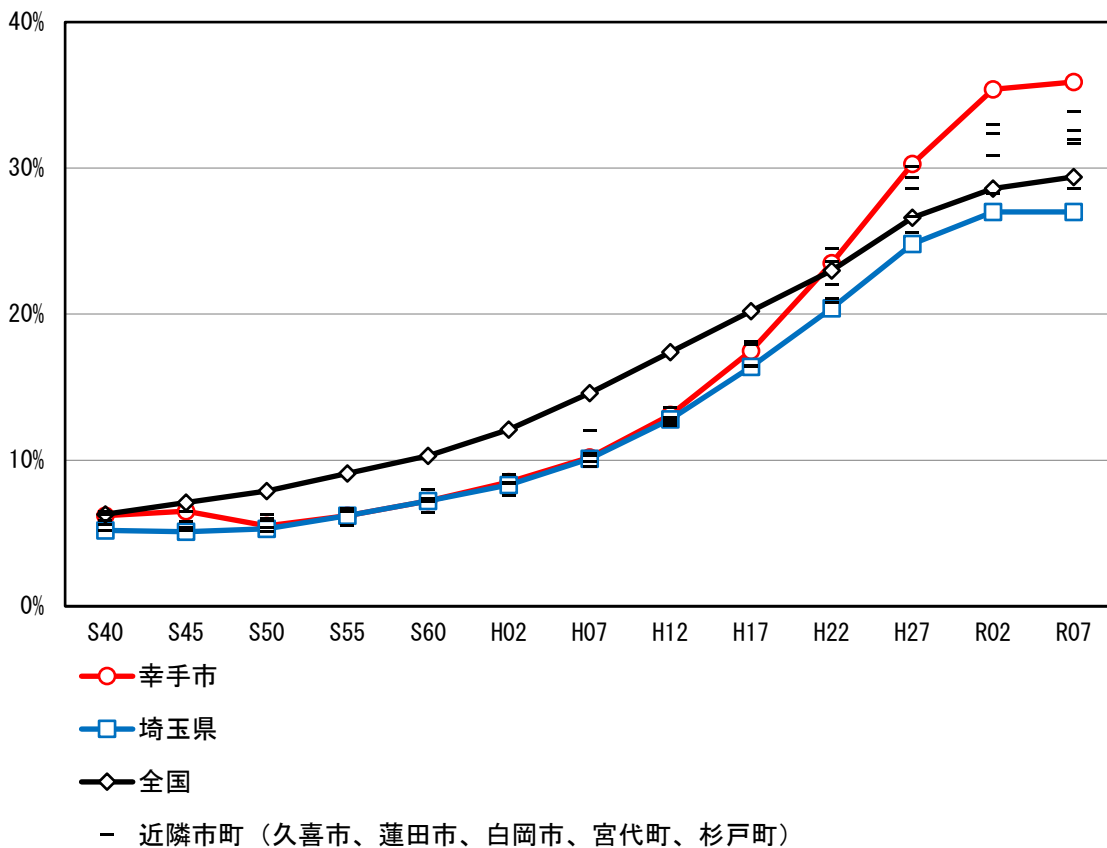


資料：埼玉県ツール※・令和7年のみ住民基本台帳人口（10月1日現在）

※埼玉県の市町村別将来人口推計ツールを使用。

<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0206/toukei-tool/jinko-tool.html>（最終閲覧日：令和8年1月23日）

図3 人口及び世帯数の推移



資料：国勢調査／令和7年のみ住民基本台帳人口（1月1日現在）・国人口推計※（9月15日現在）

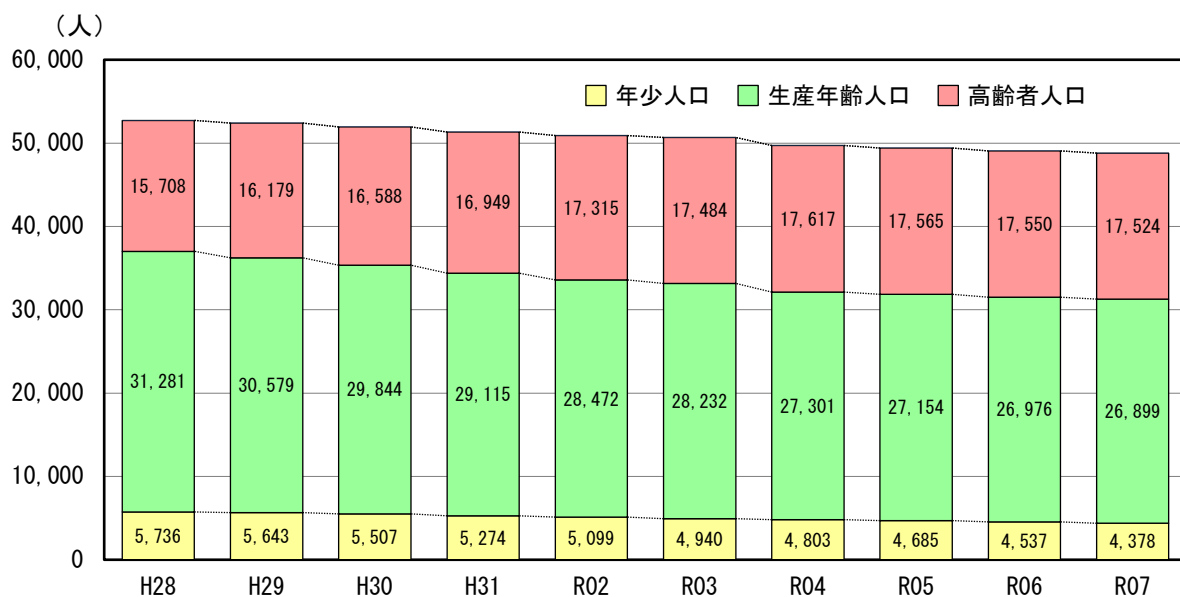
※総務省統計局トピックスから引用（<https://www.stat.go.jp/data/topics/topi1460.html>）

【最終閲覧日：令和8年1月23日】

図4 高齢化率の推移

② 直近10年間の総人口年齢3区分別人口の推移

平成28年以降の総人口年齢3区分別人口の人数の推移をみると、年少人口・生産年齢人口は減少傾向、高齢者人口は増加傾向で、少子高齢化が進んでいます。



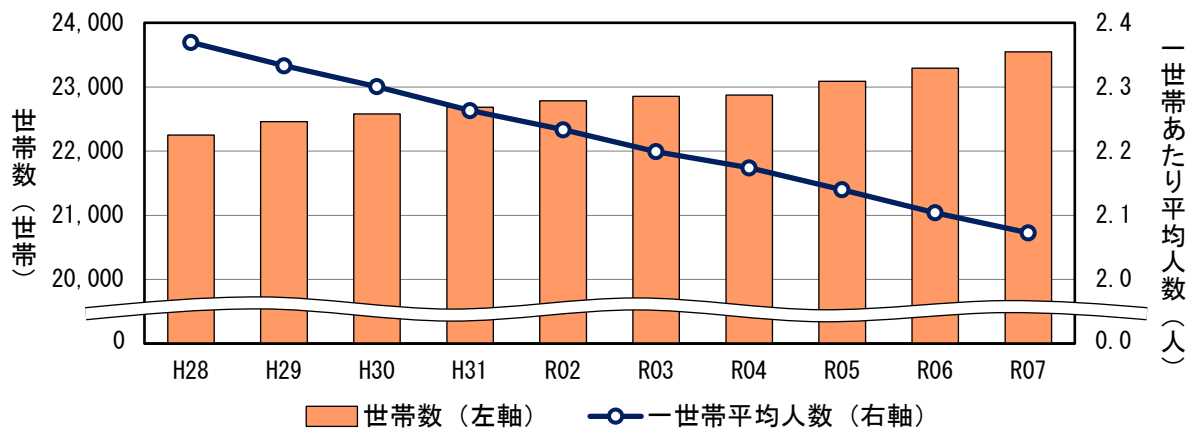
資料：住民基本台帳人口（各年1月1日時点）

図 5 年齢3区分別人口の推移

③ 世帯数の推移

核家族化の進行や単身者世帯の増加により、世帯数は増加傾向である一方で、一世帯あたり平均人数は毎年減少しています。

特に単身者世帯の割合は、平成12年国勢調査の16.6%から令和2年国勢調査の29.3%へ増加している一方、5人以上の世帯は平成12年国勢調査の14.5%から令和2年国勢調査の5.6%へ減少しています。



資料：住民基本台帳人口（各年1月1日時点）

図 6 世帯数の推移

④ 地区別人口の推移

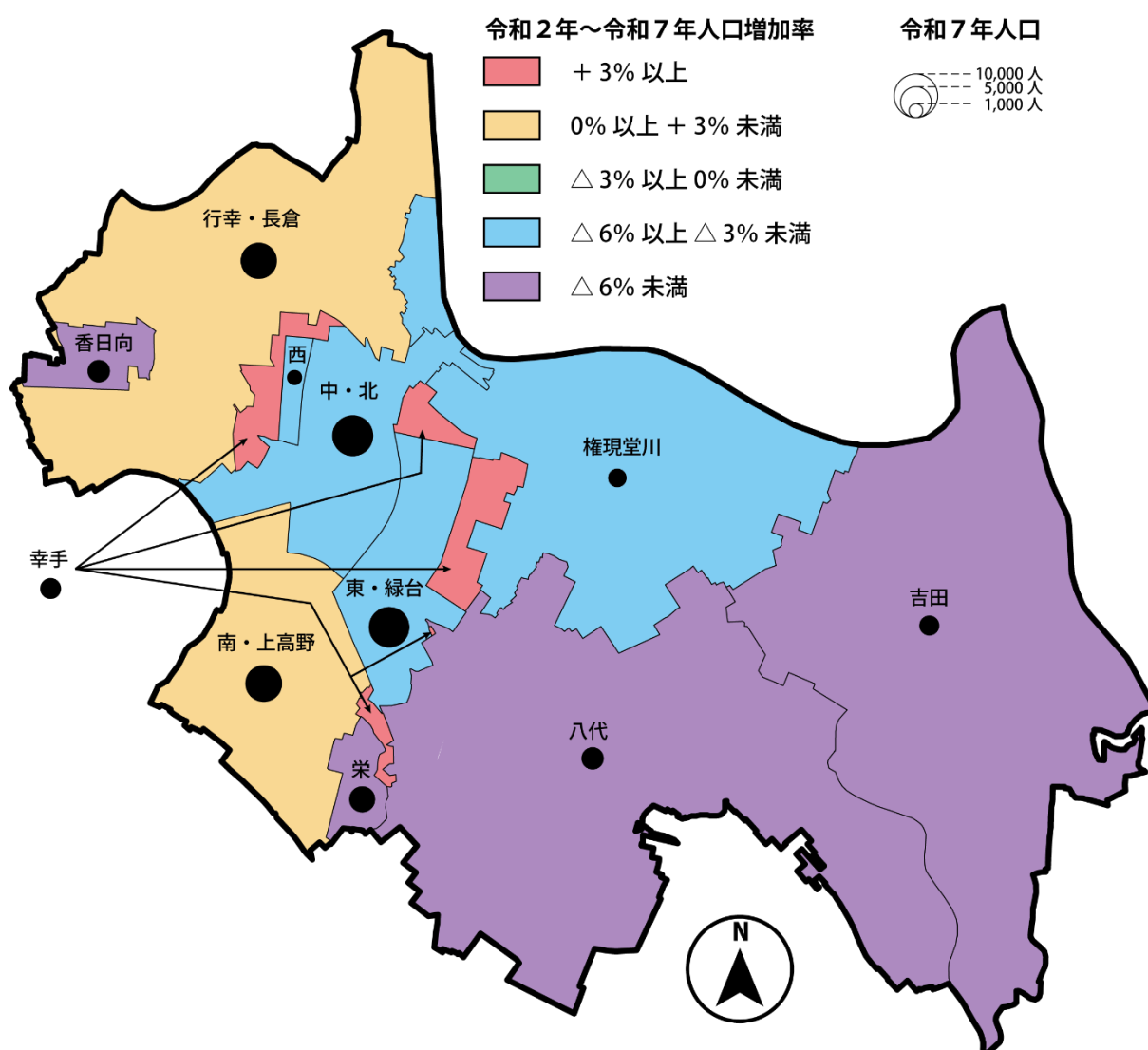
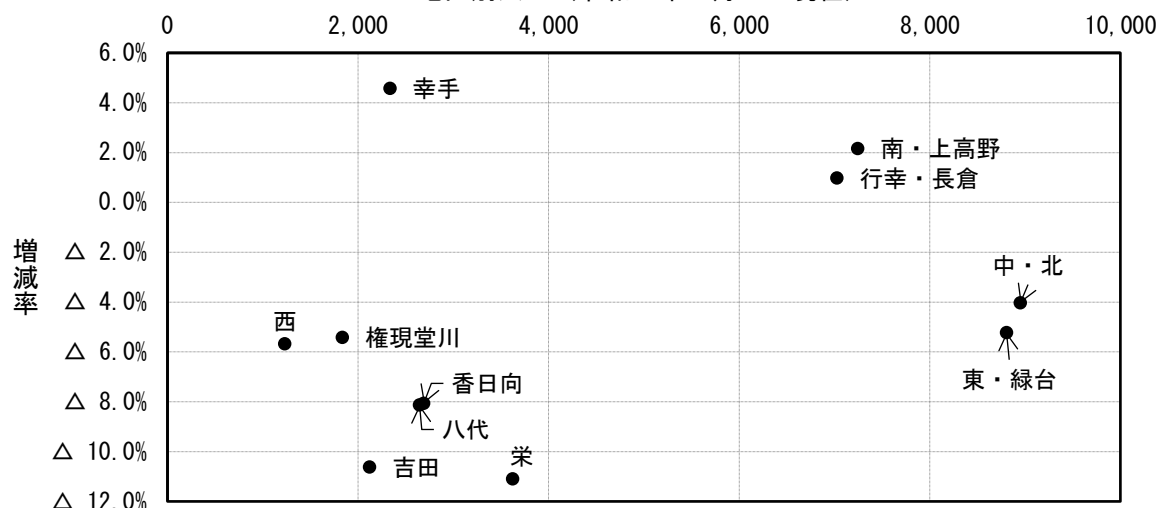
令和2年～令和7年で人口増となっている地区は、南・上高野地区（+2.2%）、幸手地区（+4.6%）及び行幸・長倉地区（+1.0%）です。このうち、南・上高野地区は、平成27年～令和2年は人口が減少しましたが、令和2年～令和7年では増加に転じています。

表 1 地区の分類と地区別人口

地区名	行政区名	R02人口	R07人口	増減数	増減率
中・北	中1～5丁目 北1～3丁目	9,326 人	8,950 人	▲376 人	▲ 4.0%
南・上高野	南1～3丁目 南団地 上高野 上高野1丁目	7,090 人	7,243 人	+153 人	+ 2.2%
東・緑台	東1～5丁目 緑台1～2丁目	9,290 人	8,805 人	▲485 人	▲ 5.2%
幸手	幸手 東1区～東5区	2,232 人	2,334 人	+102 人	+ 4.6%
西	西1～2丁目	1,304 人	1,230 人	▲74 人	▲ 5.7%
行幸・長倉	内国府間 中川崎 下川崎 千塚 千塚団地 円藤内 松石 高須賀 外国府間	6,956 人	7,024 人	+68 人	+ 1.0%
権現堂川	権現堂 上吉羽 神明内 木立	1,940 人	1,835 人	▲105 人	▲ 5.4%
吉田	惣新田 細野 下宇和田 上宇和田 下吉羽 西関宿 花島 中島 槇野地	2,373 人	2,121 人	▲252 人	▲ 10.6%
八代	戸島 戸島見立団地 戸島1～2丁目 吉野 吉野1丁目 天神島 天神島1丁目 平須賀 平須賀1～2丁目 神扇 平野 中野 長間	2,879 人	2,645 人	▲234 人	▲ 8.1%
栄	栄1～7番	4,074 人	3,622 人	▲452 人	▲ 11.1%
香日向	香日向1～4丁目	2,925 人	2,689 人	▲236 人	▲ 8.1%
	合計	50,389 人	48,498 人	▲1,891 人	▲ 3.8%

資料：住民基本台帳人口（各年10月1日現在）

地区別人口（令和7年10月1日現在）



資料：住民基本台帳人口

※人口は、令和7年10月1日現在人口、増減率は令和2年10月1日現在人口と令和7年10月1日現在人口の増減率

図7 地区別人口と増減率

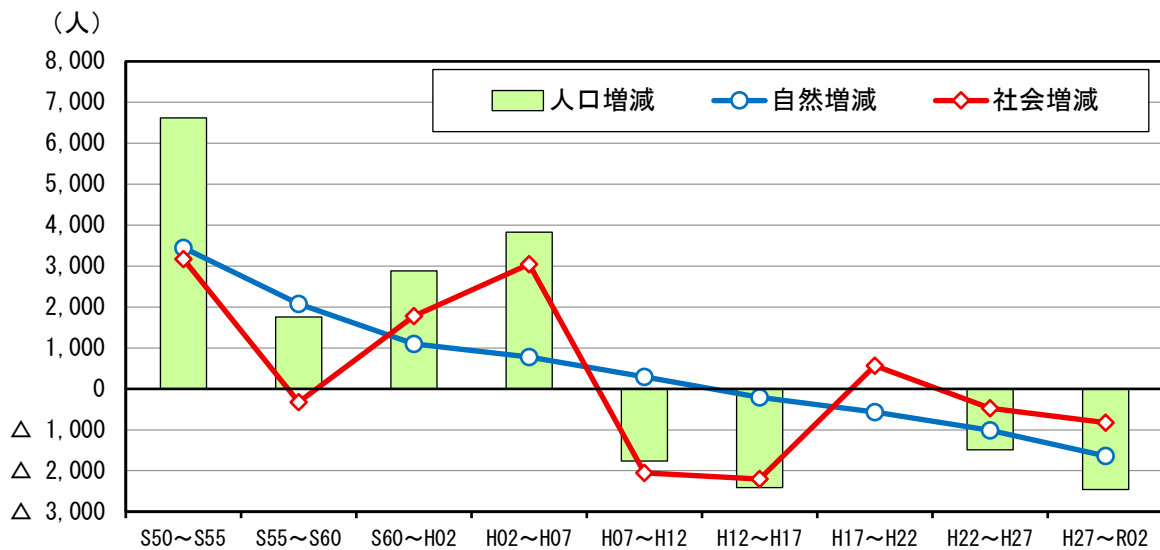
2 人口動態

人口動態は、大きく「自然動態⁵」と「社会動態⁶」に分けられます。

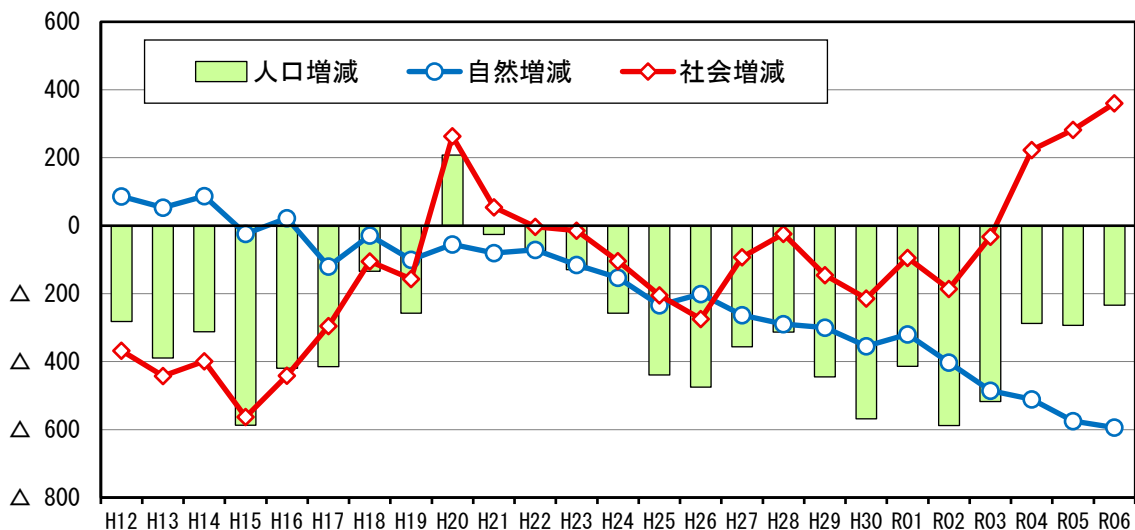
幸手市の人口は、平成7年を境に、人口増から人口減となっています。

自然動態は、一貫して減少傾向であり、平成15年を境に自然増から自然減となっています。社会動態は、増減の振れ幅が大きいです。平成7年を境に社会増から社会減の傾向となっています。

令和4年以降は、社会増に転じたものの、自然減の方が大きいため、依然として人口が減少しています。



資料：国勢調査・埼玉県ツール



資料：統計さって

図 8 幸手市の人口動態の推移

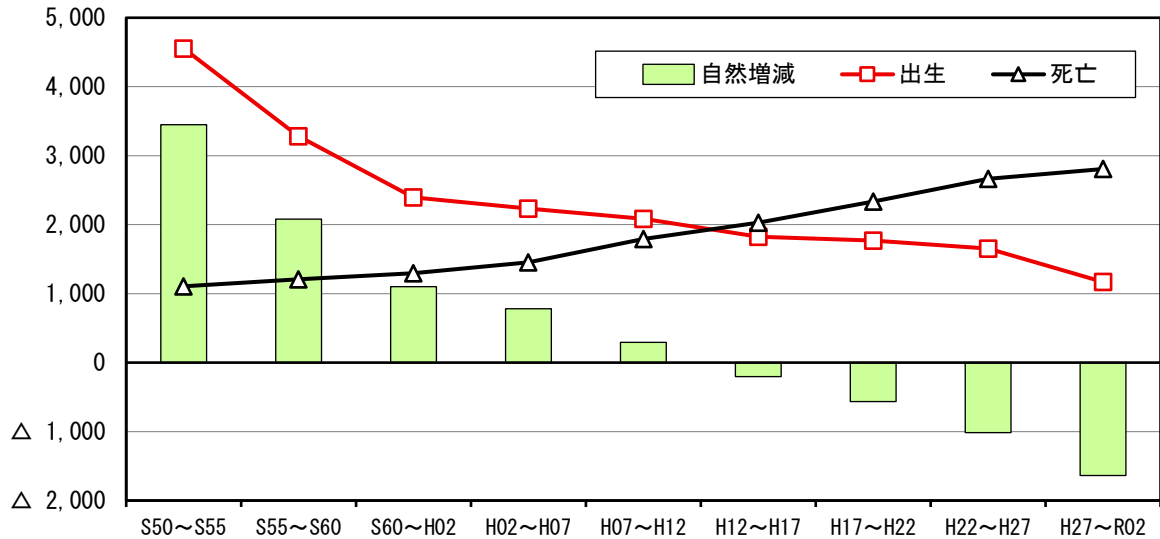
⁵ 出生や死亡など生物学的要因による人口の変化。出生数から死亡数を引いた数。

⁶ 転入・転出といった、社会的要因による人口の変化。転入数から転出数を引いた数。

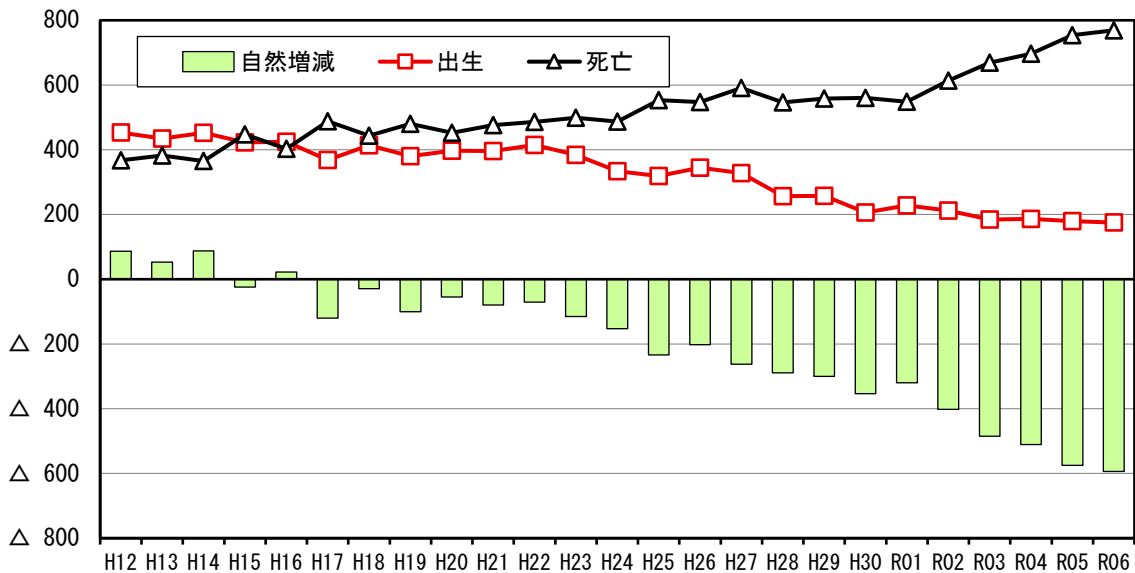
① 自然動態

自然動態は、平成15年を境に自然増から自然減に転じています。今後、人口の多い高齢者層（15ページ参照）の死亡数が増加すると予測される一方で、合計特殊出生率⁷が減少傾向であることから（12ページ参照）、出生数の減少は今後も続くことが予測されます。

このことから、自然減の傾向は今後も続くと思込まれます。



資料：国勢調査・埼玉県ツール



資料：統計さって

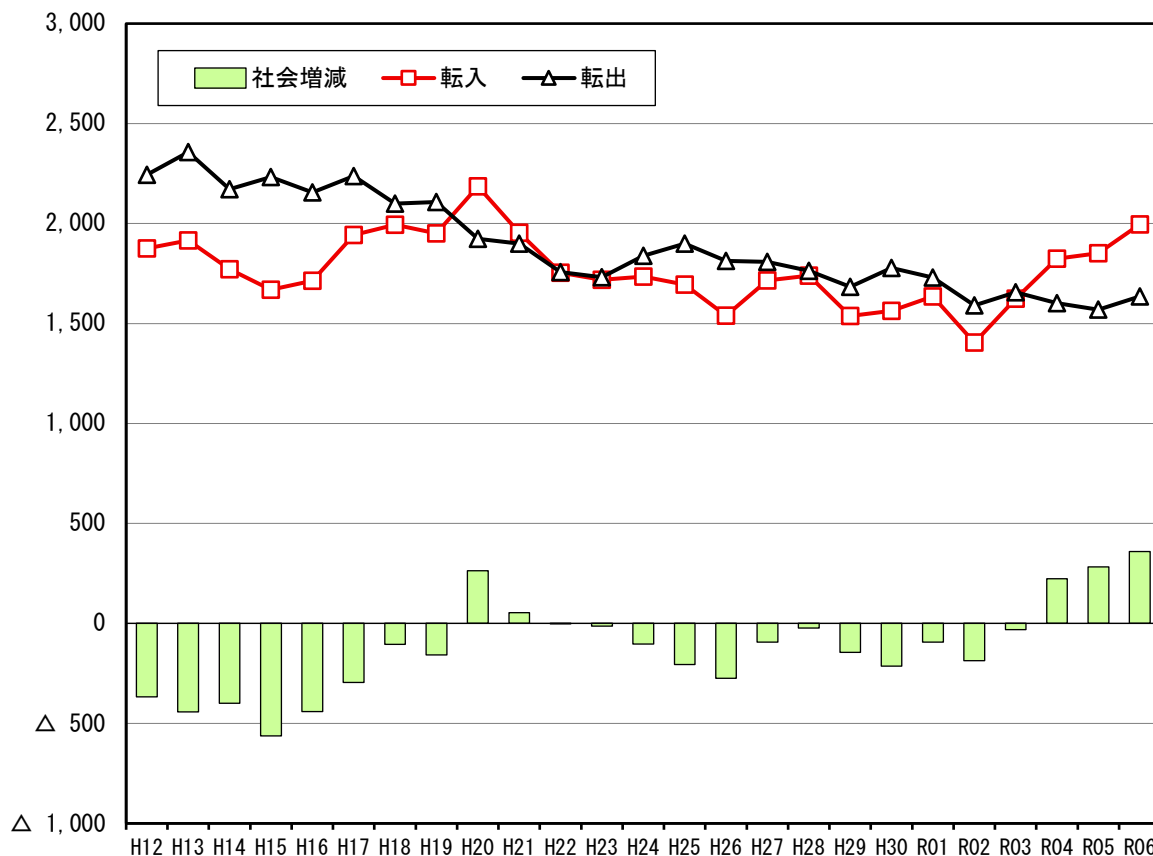
図 9 幸手市の自然動態の推移

⁷ 一人の女性が生涯に何人の子供を産むかを推計したもので、15歳～49歳の女性の年齢別出生率を合計した数値。合計特殊出生率では、人口構成による影響（出産可能な年齢の女性の数が増えれば、女性1人当たりで生む子どもの数が減っている場合でも増加するなど）を排除して比較することができる。

② 社会動態

社会動態は平成8年以降、社会減（転出超過）となっておりましたが、令和4年に社会増（転入超過）に転じ、社会増減数も上昇傾向です。

これは、令和4年以降、近隣市町からの社会増が増えていることに伴うものと推測されます（14ページ参照）。



資料：統計さって

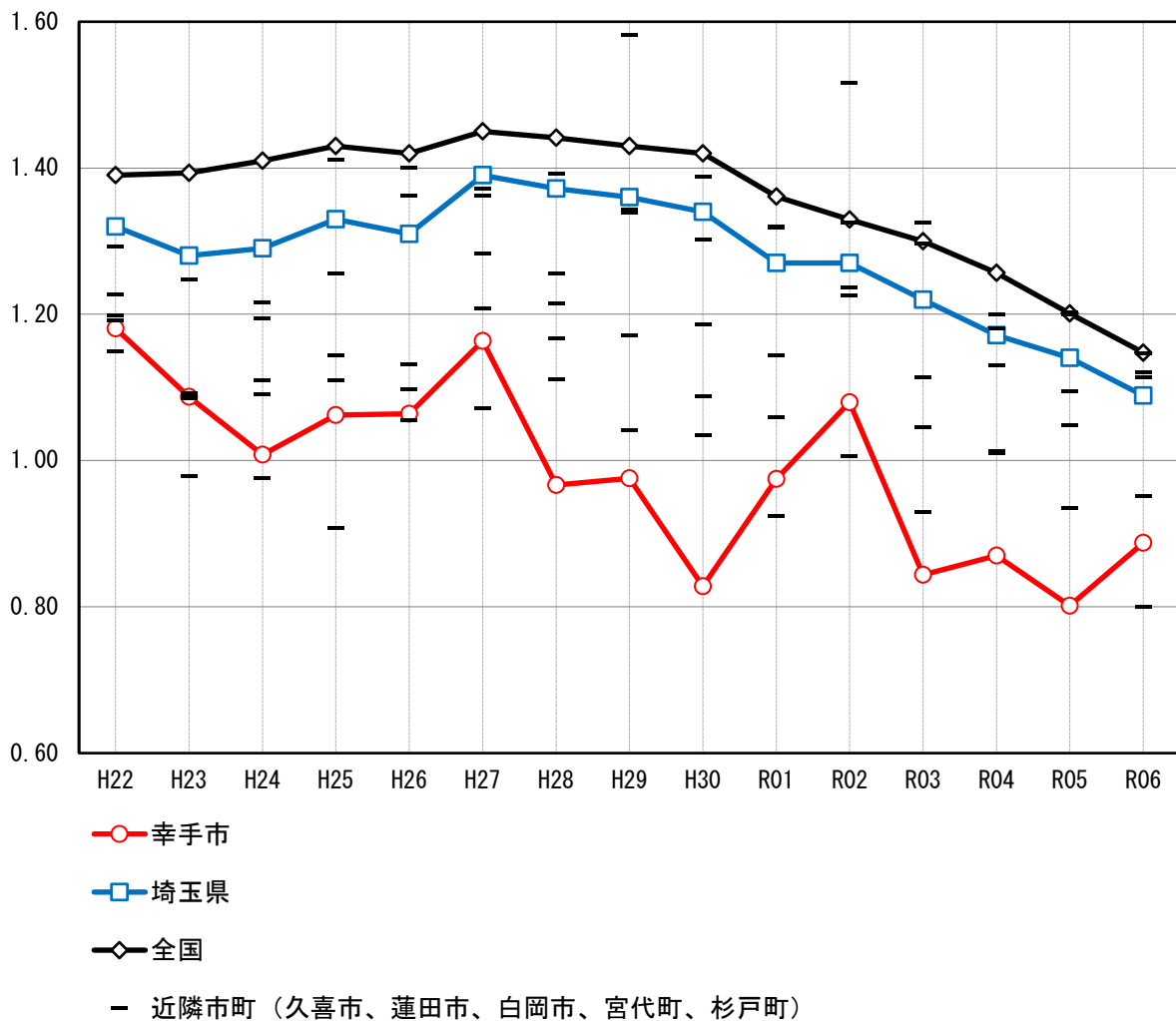
図 10 幸手市の社会動態の推移

③ 合計特殊出生率

合計特殊出生率は、令和6年度で0.89となっており、国（1.15）や埼玉県（1.09）、近隣市町（幸手保健所管内／平均1.00）と比較しても低い数値となっています。

国・埼玉県ともに、平成27年を境に一貫して減少しております。幸手市においても、上昇する年もありますが、減少傾向となっています。

9ページに記載したとおり、合計特殊出生率の低下は将来的な出生数の低下につながるため、出産や子育てを支援する環境の充実が求められます。

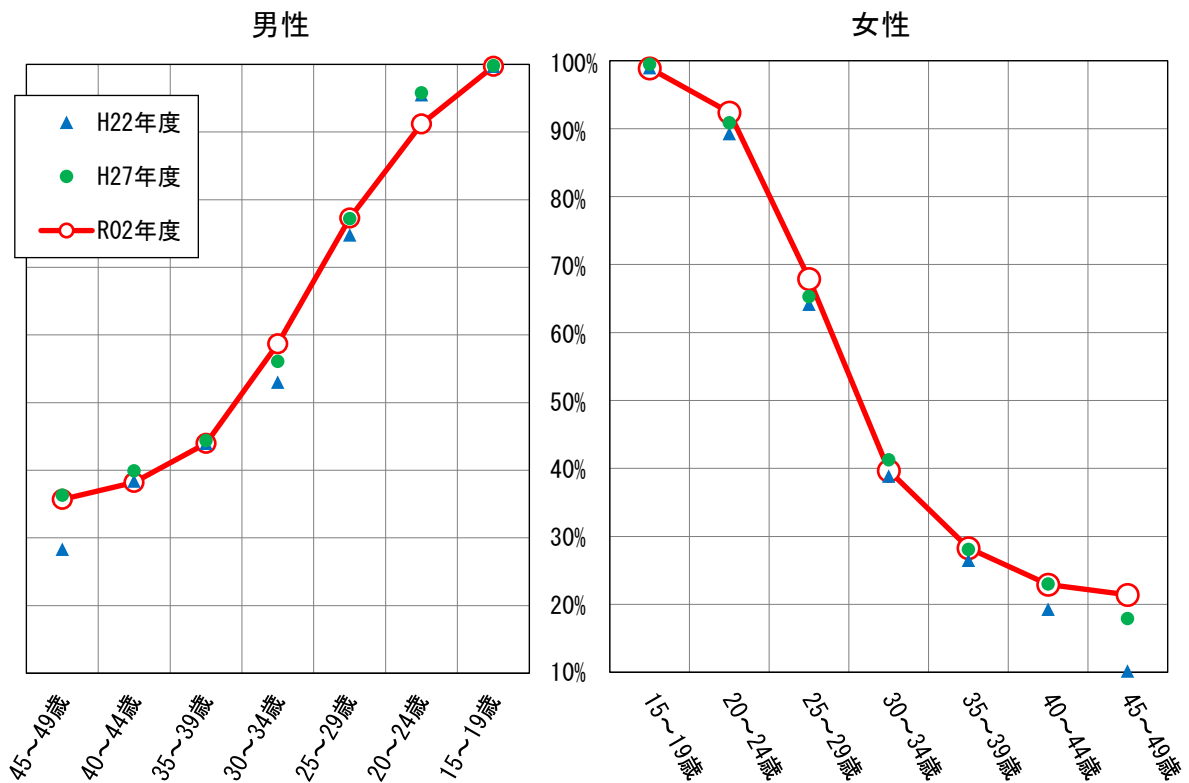


資料：人口動態調査、住民基本台帳人口（各年1月1日時点）

図 11 合計特殊出生率の推移

④ 未婚率

男性、女性とも未婚率⁸は、多くの年齢階級で上昇傾向にあります。特に30～34歳の男性、25～29歳・45～49歳の女性については上昇率が高くなっています。また、20～24歳以外のすべての年齢階級において、男性の方が女性より未婚率が高くなっています。



資料：国勢調査

図 12 年齢別未婚率の推移

⑤ 転入・転出

令和元年～令和5年の転入数・転出数内訳を見ると、いずれも久喜市、春日部市、宮代町、杉戸町などの近隣自治体が上位を占めています。

このうち、春日部市・宮代町は転入超過、久喜市・杉戸町は転出超過となっています。

幸手市と近隣市町間の社会増減については、加須市を除いて社会増の傾向となっています。このうち、春日部市については、令和元年は転出超過となっていました。令和3年以降は転入超過となっています。

⁸ 特定の年齢層の人口に占める未婚者数の割合。全年齢層の未婚率は、15歳以上人口に占める未婚者数の割合。

表 2 転入数・転出数等の上位地域

転入数			転出数		
1位	久喜市	792人	1位	久喜市	855人
2位	春日部市	526人	2位	杉戸町	471人
3位	杉戸町	415人	3位	春日部市	445人
4位	越谷市	272人	4位	加須市	301人
5位	宮代町	201人	5位	越谷市	294人

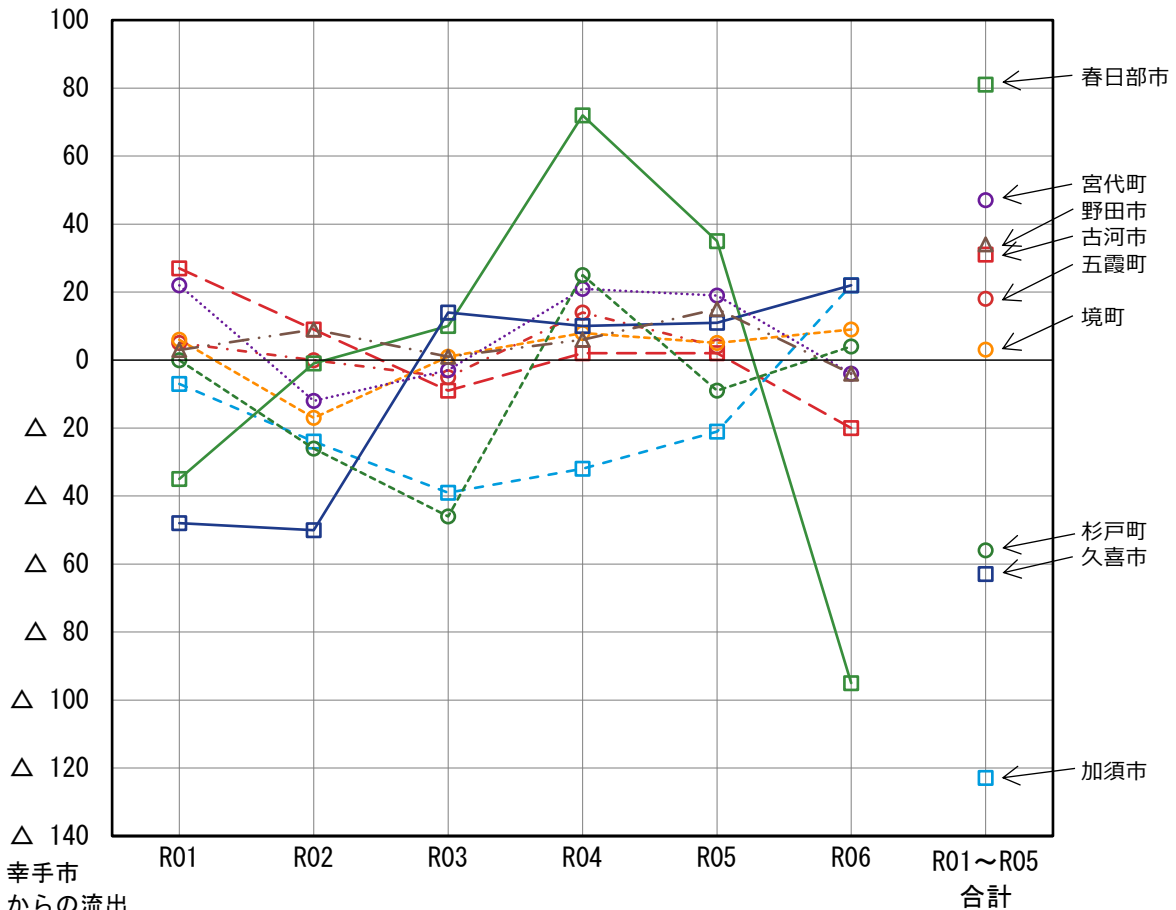
転入超過数			転出超過数		
1位	春日部市	81人	1位	加須市	123人
2位	草加市	61人	2位	久喜市	63人
3位	三郷市、宮代町	各47人	3位	杉戸町	56人
4位			4位	さいたま市大宮区	54人
5位	千葉県野田市	34人	5位	さいたま市北区	51人

※ 令和元年～令和5年の5年間の転入数合計・転出数合計の上位5市区町村を記載

※ 指定都市（さいたま市等）は、行政区ごとに集計

資料：RESAS（住民基本台帳人口移動報告）

幸手市
への流入



幸手市からの流出

- 対 古河市
- 対 五霞町
- 対 境町
- 対 加須市
- 対 春日部市
- 対 久喜市
- 対 宮代町
- 対 杉戸町
- △— 対 野田市

※令和6年度の対五霞町数値は不明

資料：RESAS・住民基本台帳人口移動報告

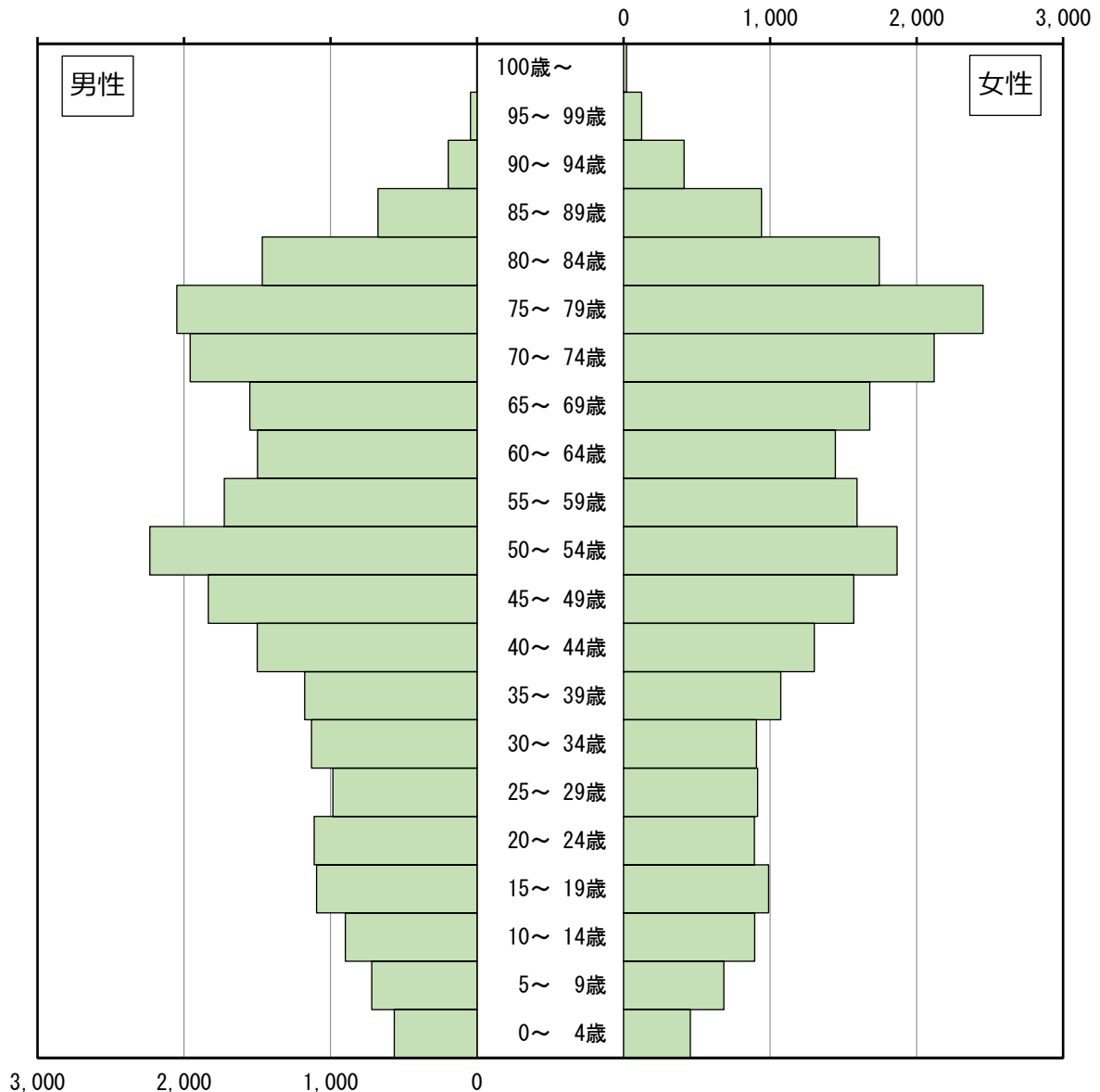
図 13 幸手市における近隣市町への社会増減の推移

3 年齢別人口

① 人口ピラミッド

幸手市の令和7年10月1日時点の人口ピラミッド⁹は「つぼ型」と呼ばれる、少子高齢化が進んだ状態となっています。

この状態が続くと、生産年齢人口の減少による労働力不足や、高齢者の増加による社会保障費の増加などの経済的な課題が生じるため、対策を講じる必要があります。



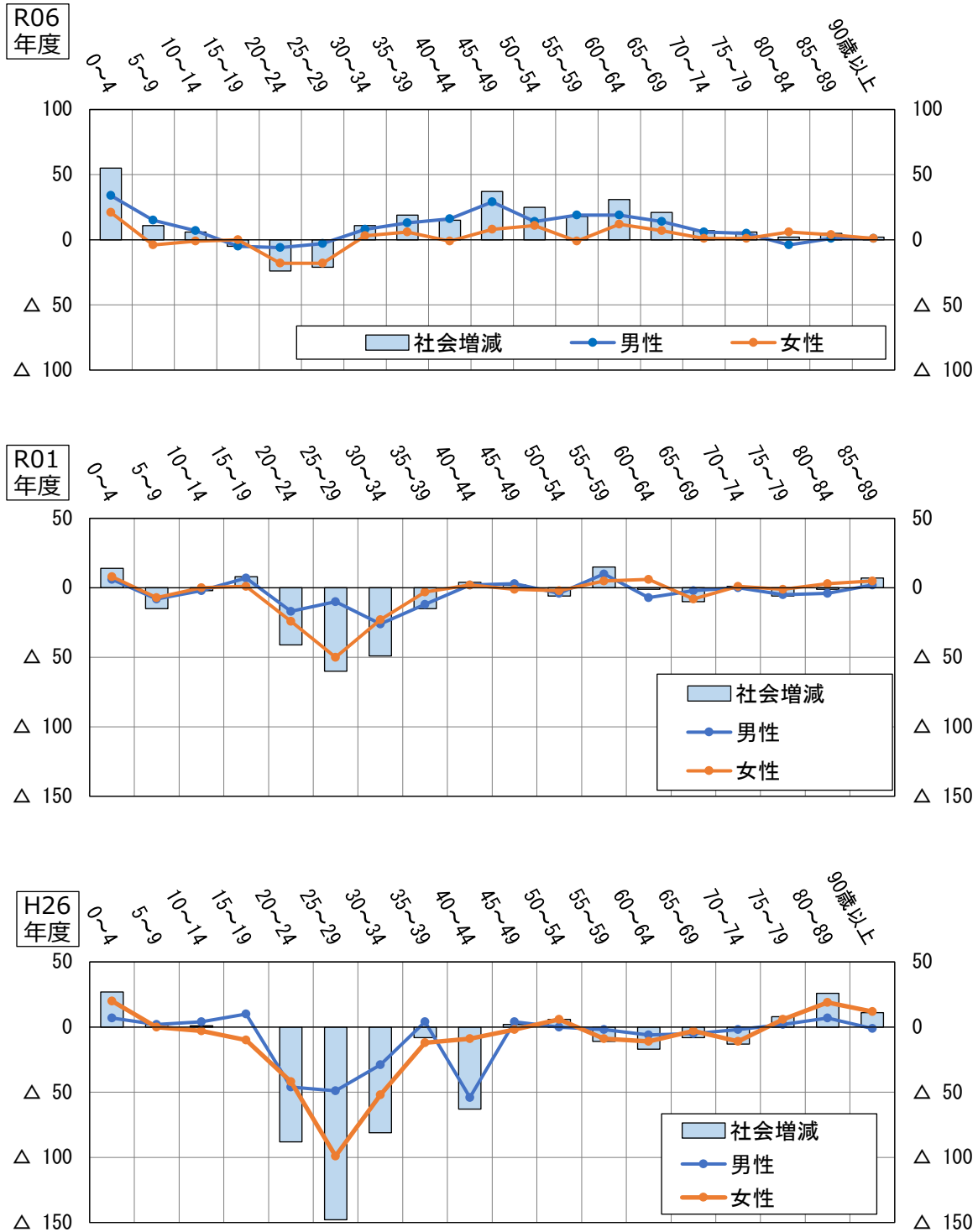
資料：住民基本台帳人口

図 14 幸手市の人口ピラミッド

⁹ ある国や地域の人口を男女別・年齢別にグラフ化したもの。グラフの形状（「富士山型」「つりがね型」「つぼ型」など）から、その社会の人口構造、将来の人口増減などを視覚的に把握することができる。

② 年齢別社会動態の動向

平成26年度・令和元年度・令和6年度における年齢別での社会動態をみると、20歳～34歳の年齢の転出超過が顕著であることがわかります。しかしながら、令和6年度においては減少幅が小さくなっているほか、他の世代の社会増も見られるようになりました。



出典：住民基本台帳人口移動報告

図 15 男女別年齢別社会動態

③ 年齢3区分別地区別人口

(1) 人口増加率

若年人口は全ての地区で減少しています。

生産年齢人口は、南・上高野地区、幸手地区、行幸・長倉地区で増加している一方、吉田地区、香日向地区は著しく減少しています。

高齢者人口は、南・上高野地区、幸手地区、香日向地区で増加しています。

(2) 人口密度

若年人口は西地区、東・緑台地区が高くなっています。

生産年齢人口は栄地区、西地区、東・緑台地区が高くなっています。

高齢者人口は、栄地区、香日向地区が高くなっています。

若年人口の減少と高齢者人口の増加が同時に進むと、急激に少子高齢化が進むため、地域の実情に応じた対策を講じる必要があります。

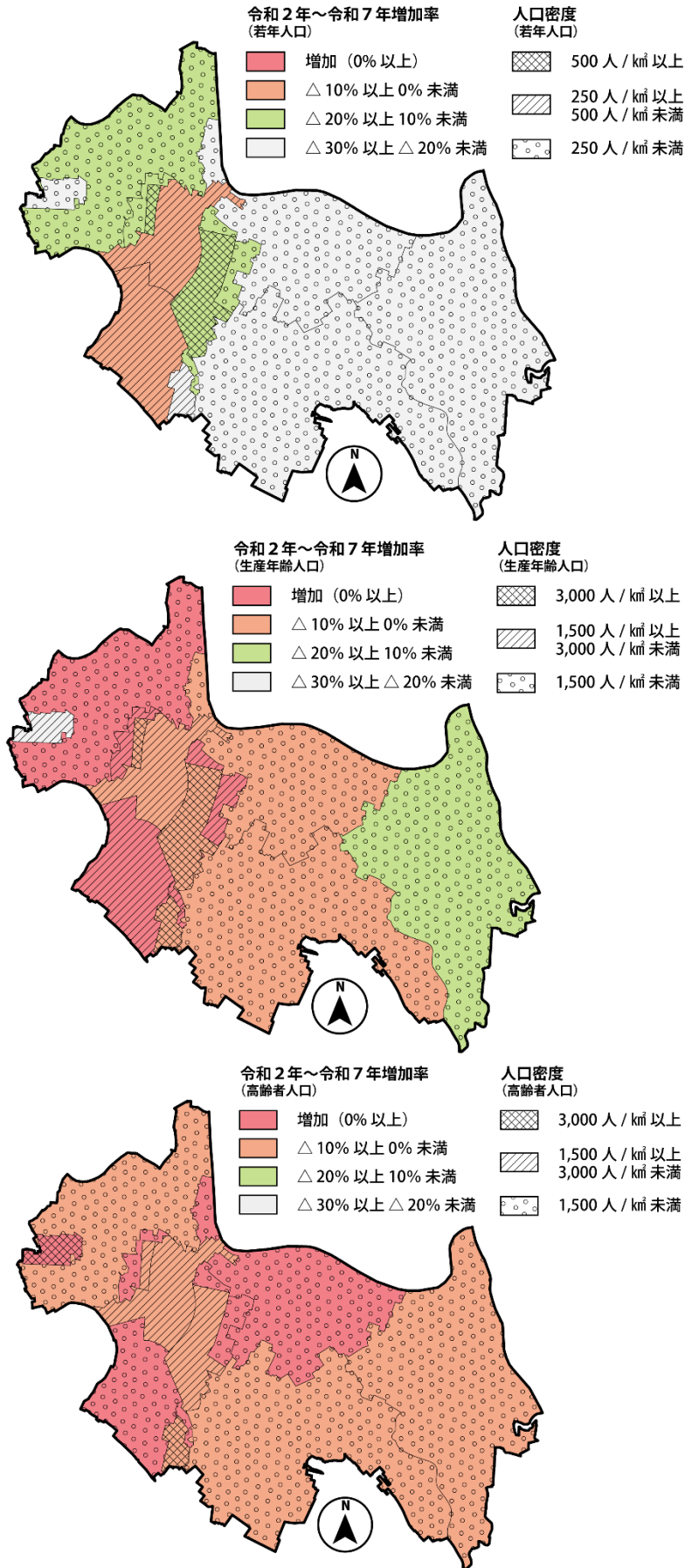


図 16 年齢3区分別地区別人口

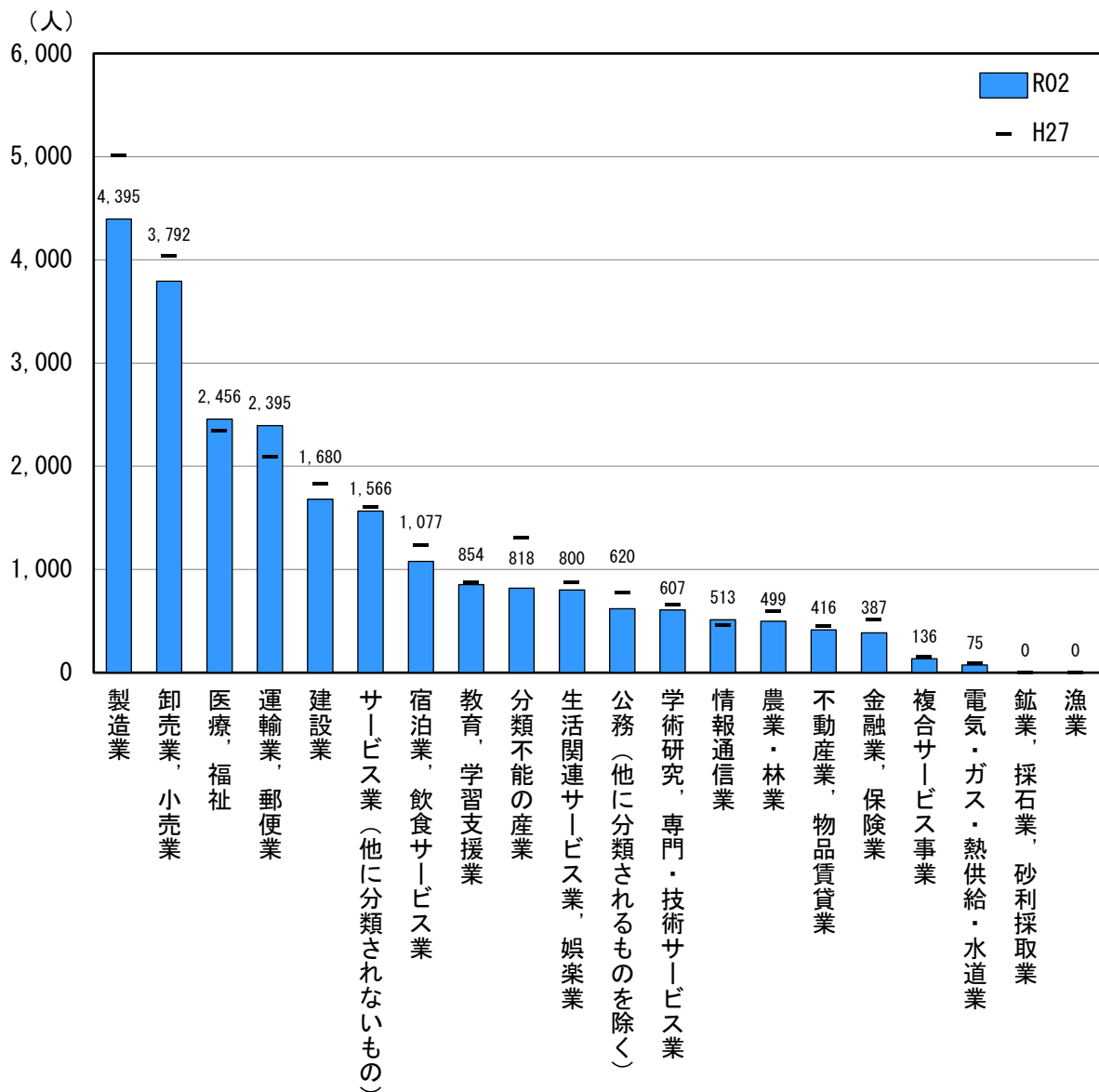
4 産業別人口

① 全体の動向

産業別人口では、「製造業」が最も多く、次いで「卸売業・小売業」、「医療・福祉」、「運輸業・郵便業」「建設業」の順となっています。

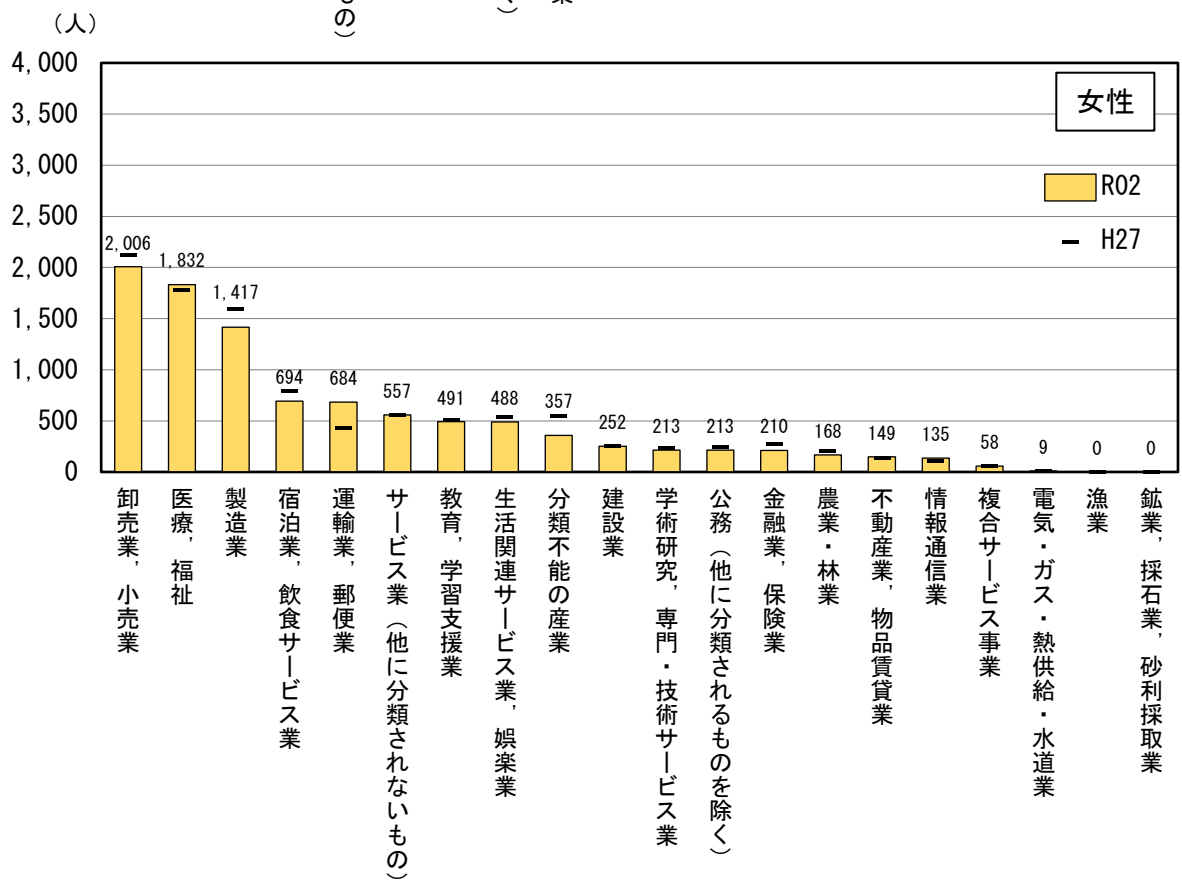
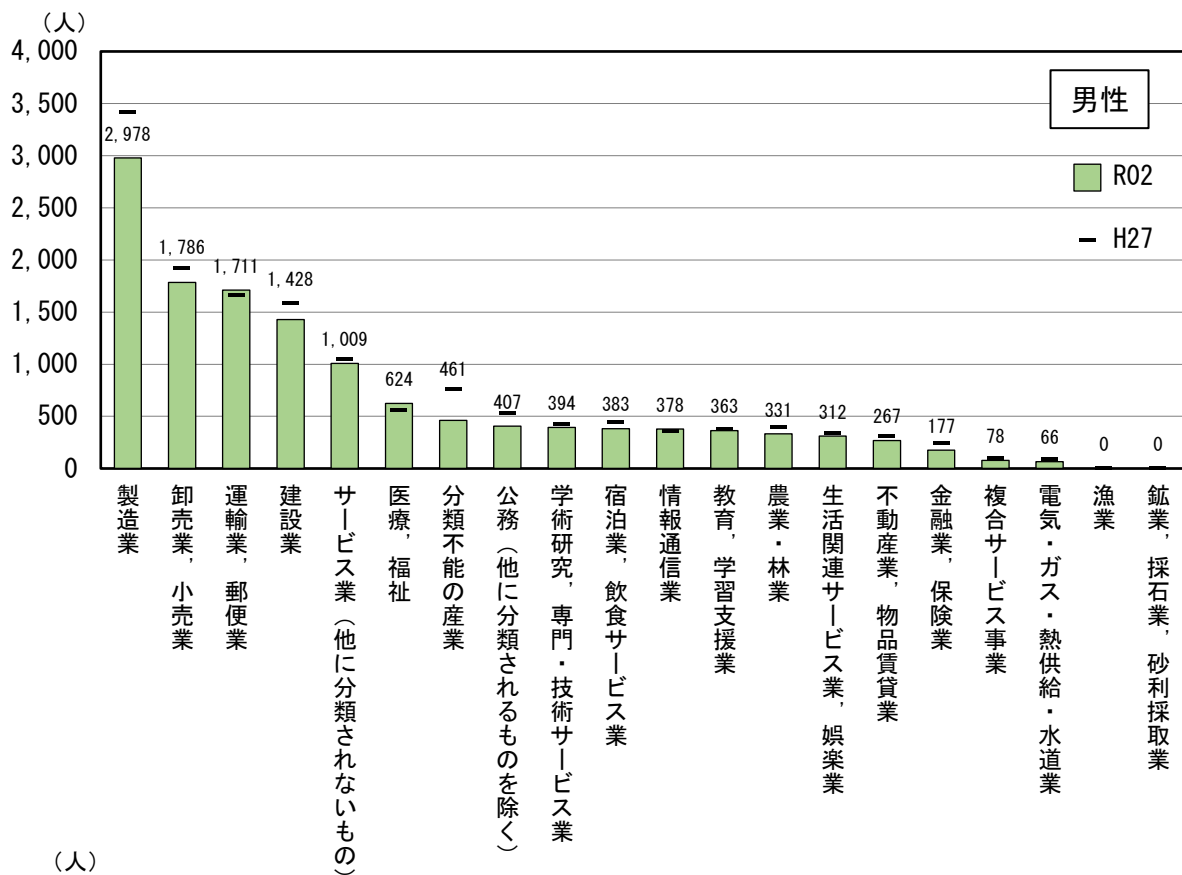
平成27年と比較すると、全体的に減少していますが、「運輸業・郵便業」、「医療・福祉」、「情報通信業」は増加しています。

男性は「製造業」、「卸売業、小売業」、「運輸業、郵便業」の順に就業者が多く、女性は「卸売業、小売業」、「医療・福祉」、「製造業」の順に多くなっています。



資料：国勢調査

図 17 産業別人口（総数）



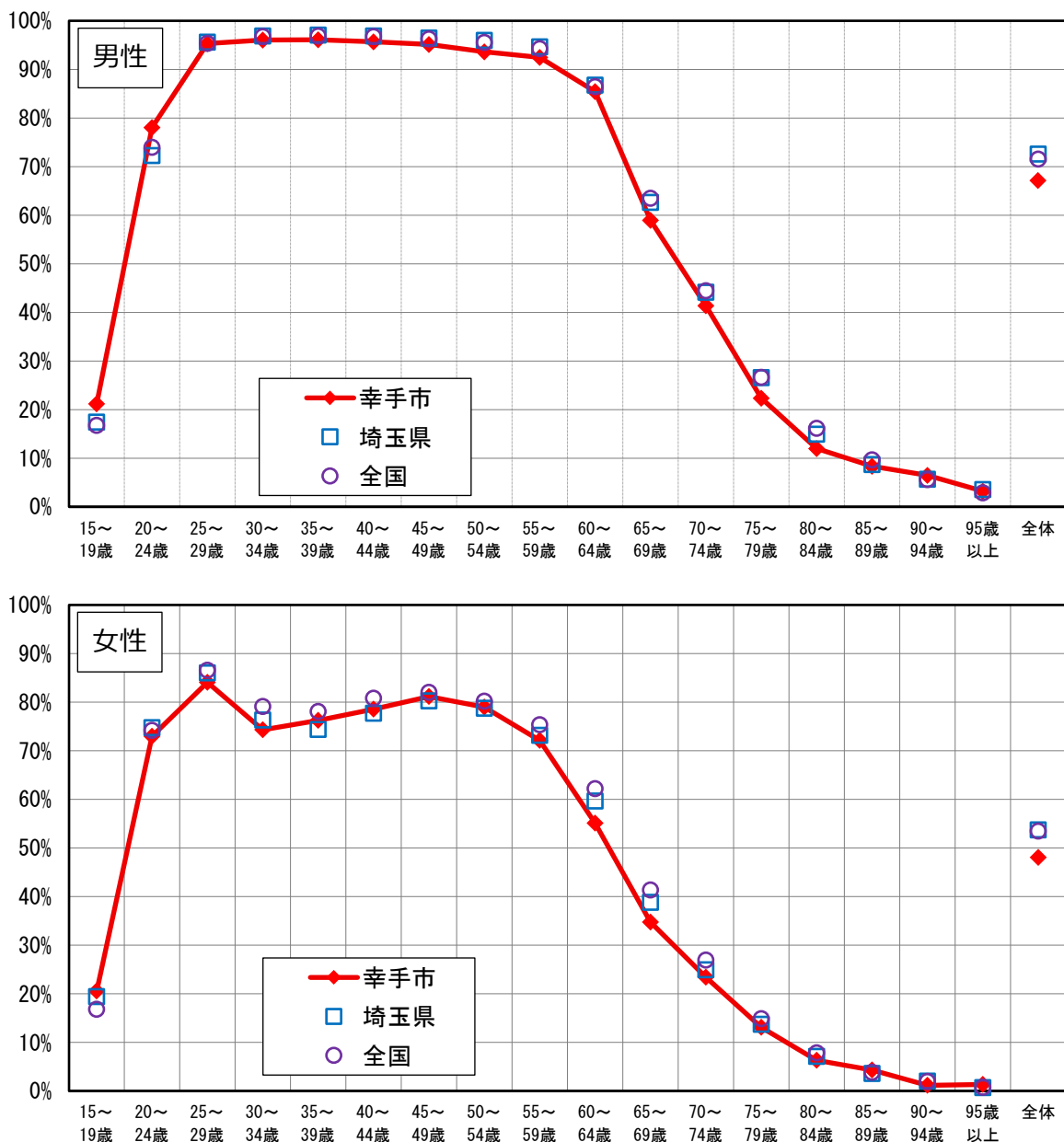
資料：国勢調査

図 18 産業別人口（男女別）

② 年齢階級別労働力率

幸手市の年齢階級別労働力率¹⁰について、国・埼玉県の比率と比較すると、男性は20～24歳の比率が高い一方、65歳～84歳の比率は低い傾向です。女性は、30～34歳の比率が低いM字カーブ現象が見られ、全体的に国・埼玉県の比率よりも低い傾向です。

全体の比率をみても、男性（国71.6%/埼玉県72.6%/幸手市67.1%）・女性（国53.5%/埼玉県53.7%/幸手市48.0%）と、国・埼玉県よりも5ポイント程度低くなっています。



資料：国勢調査

図 19 年齢階級別労働力率

¹⁰ 人口（労働力状態「不詳」を除く。）に対する労働力（就業者と完全失業者の合計）の割合。

II 将来人口の推計と分析

令和6年3月に策定した第6次幸手市総合振興計画後期基本計画の目標人口を設定する過程において、将来人口の見直しの必要性を検証し、見直しを行わない決定がなされました。

本戦略においてもこれに基づき、従来の人口ビジョンを引き続き採用することとします。

なお、次期戦略策定の際には、改めて見直しの必要性について検証します。

1 将来人口の推計条件等

① 推計条件

※第2期幸手市まち・ひと・しごと創生総合戦略「人口ビジョン」と同じ条件

- ・合計特殊出生率は、2029年（令和11年）に1.21、2030年（令和12年）に1.25、2035年（令和17年）に1.28、2045年（令和27年）以降は1.27を実現すると仮定しました。
- ・社会移動は、2025年からゼロ（均衡）で推移すると仮定しました。

② 推計の手法

コーホート要因法による推計（地区別の推計人口を積み上げる手法）

③ 最終目標年度

2060年（令和42年）

④ 推計の元となる資料

（1）人口データ

2016年（平成28年）1月及び2018年（平成30年）1月の住民基本台帳人口

（2）生存率

2018年（平成30年）1月に国立社会保障・人口問題研究所で示された幸手市の生存率

（3）出生率

2017年（平成29年）に国立社会保障・人口問題研究所で示された幸手市の「子ども女性比」

（4）移動率

2016年（平成28年）1月と2018年（平成30年）1月の実績値をもとに、2年間封鎖推計（出生、死亡のみで社会移動を考慮しない推計）を行い、実際の人口と比較して移動率を算出

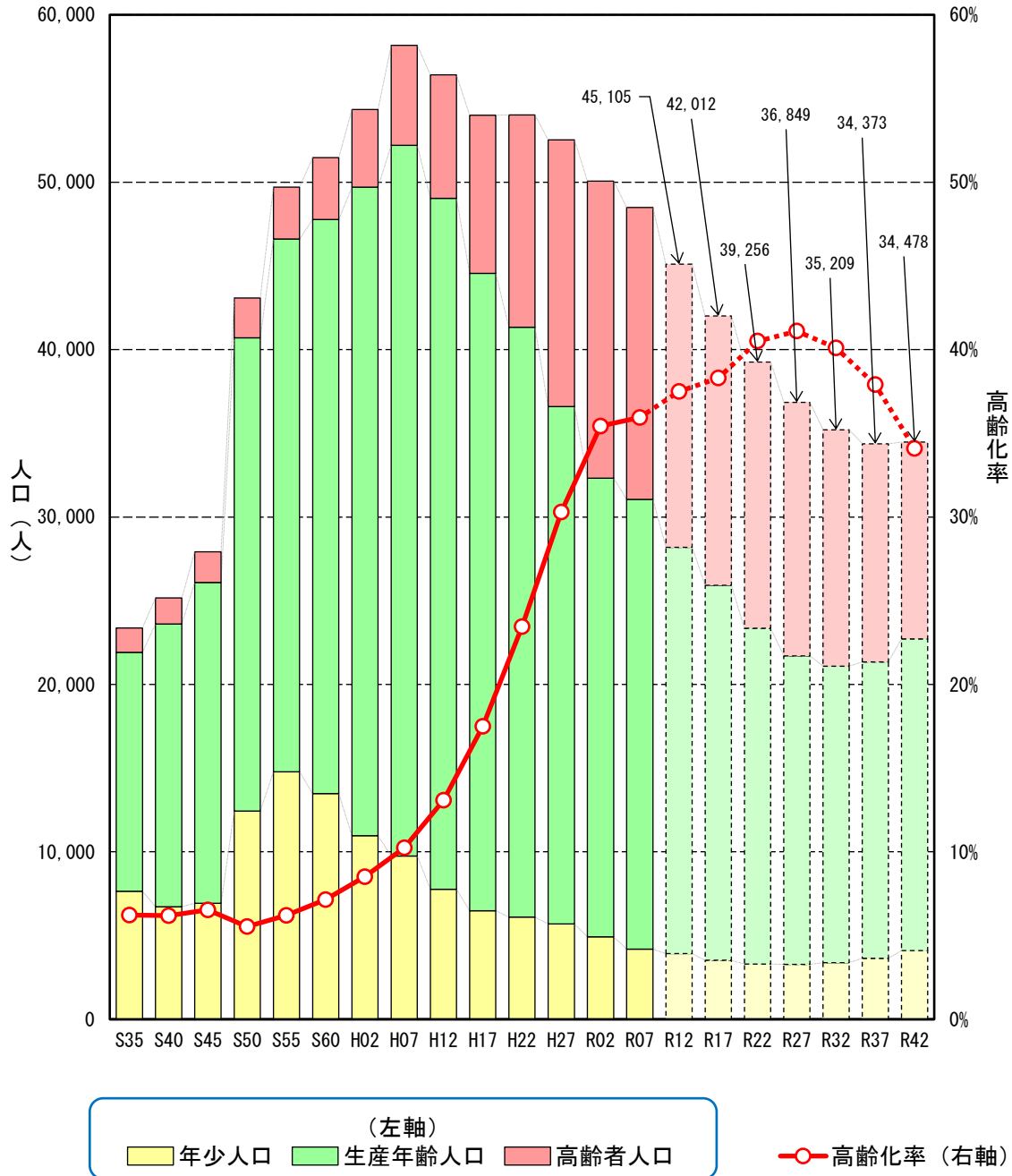
2 将来人口の推計結果

① 総人口の推計

推計によると、今後も人口減少・高齢化が続くことが見込まれます。

人口は令和37（2055）年に下げ止まり、横ばい傾向になる見込みです。

高齢化率は、令和27（2045）年をピークに、減少傾向に転じる見込みです。



※ 年齢不詳人口がある場合は、按分処理をしている。

※ 令和7年は1月1日現在の住民基本台帳人口、令和12年以降は推計値

資料：国勢調査（令和7年のみ住民基本台帳人口【10月1日現在】）

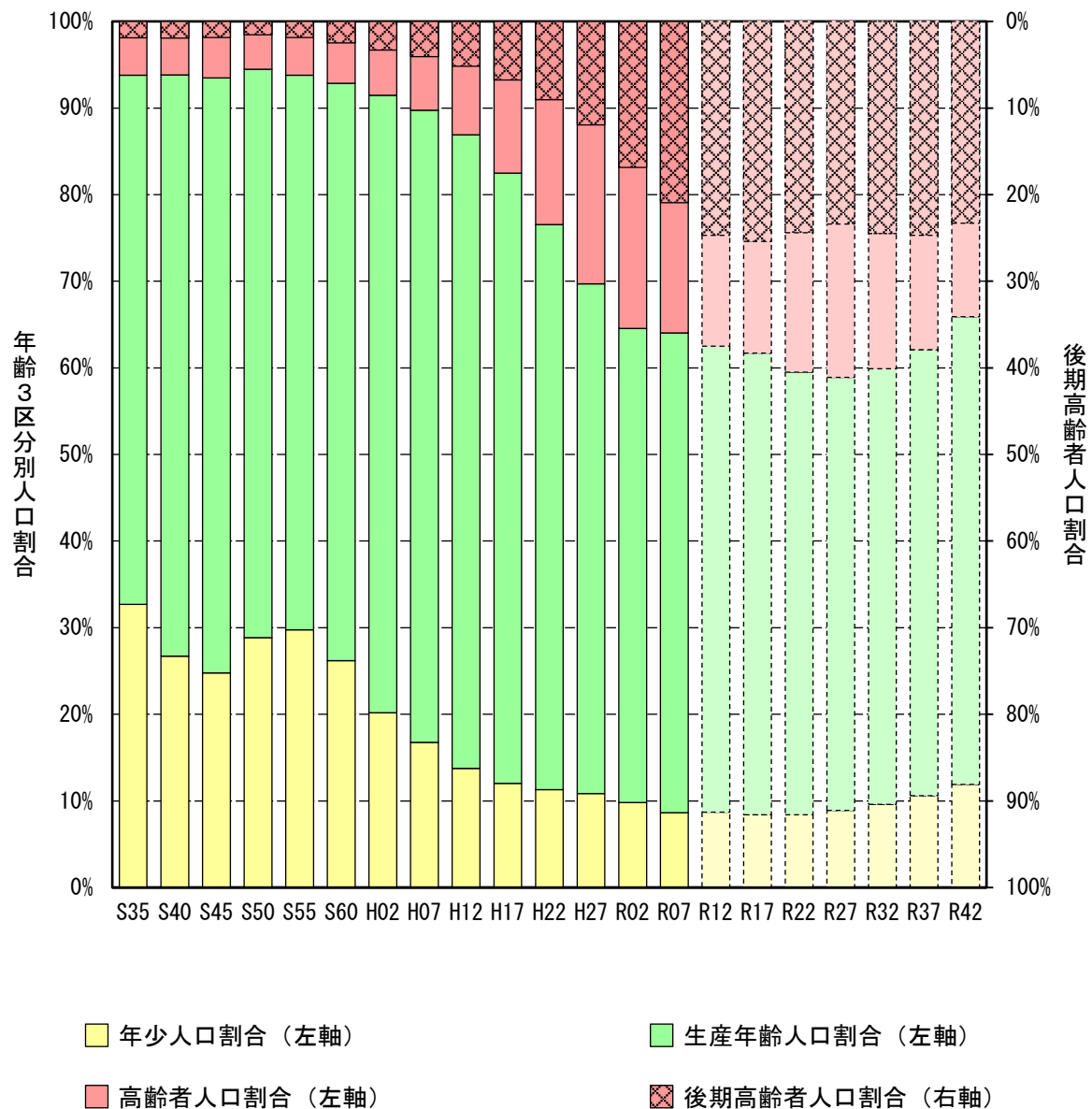
図 20 幸手市の総人口の推計

② 年齢4区分別人口割合の推計

年齢別区分で見ると、年少人口割合は令和17（2035）年の8.4%を底として、令和42（2060）年には11.9%まで上昇する見込みです。

生産年齢人口割合は、2045年（令和27年）50.0%を底として、上昇傾向に転じる見込みです。

高齢者人口割合（高齢化率）は、2045年（令和27年）が41.1%とピークを迎えますが、その後下降傾向に転じる見込みです。



※ 年齢不詳人口がある場合は、按分処理をしている。

※ 令和7年は1月1日現在の住民基本台帳人口、令和12年以降は推計値

資料：国勢調査（令和7年のみ住民基本台帳人口【10月1日現在】）

図 21 年齢4区分別人口割合の推計

第3章 第3期総合戦略

I 第2期総合戦略の達成状況

第2期総合戦略では、4つの基本目標に対して数値目標を、目標に対する施策に対しては重要業績評価指標（KPI）を成果指標として設定し、関連する取組内容の進捗を管理しています。

第2期総合戦略の計画期間は令和7年度までとなっておりますが、策定時点の成果指標（数値目標・KPI）に対する達成見込みについては、次のとおりです。

また、当初値は原則として令和元年度の実績値です。

表3 第2期総合戦略の成果指標（数値目標・KPI）に対する達成見込み

記号	説明	該当指標数 (比率)
◎	既に目標を達成している	4 (9.5%)
○	現況の推移からみて、令和7年度末において目標値を達成する見込み	17 (40.5%)
×	現況の推移からみて、令和7年度には目標値達成には至らず、令和元年度当初値よりも悪化する見込み	7 (16.7%)
▲	現況の推移からみて、令和7年度末には目標値達成には至らないが、令和元年度当初値より改善かつ令和6年度実績値より改善する見込み	11 (26.2%)
▼	現況の推移からみて、令和7年度には目標値達成には至らず、令和元年度当初値より改善かつ令和6年度実績値と同程度または悪化する見込み	3 (7.1%)
合計		42 (100%)

表4 基本目標別数値目標・KPI達成見込み

基本目標	◎	○	×	▲	▼	合計
1 安定した雇用を創出するとともに、安心して働けるようにする	2	5	1	2	0	10
2 新しいひとの流れをつくる	1	4	2	1	0	8
3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる	0	4	3	3	0	10
4 ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる	1	4	1	5	3	14
合計	4	17	7	11	3	42

基本目標1 安定した雇用を創出するとともに、安心して働けるようにする

基本目標1では、雇用拡充と産業・農業支援による地域経済の活性化を図ることで、「安定した雇用を創出するとともに、安心して働けるようにする」ことを目指しました。

施策1「産業団地進出企業や市内事業者との連携による雇用の創出」及び施策3「地域農業の推進」については、全てのKPIが達成済または達成見込みですが、施策2「多様な働き方への支援」については、未達成見込みのKPIがあります。

数値目標である市内従業者数については、当初値を下回る見込みです。

本基本目標では、10項目中2項目が達成済み、5項目が達成見込み、3項目が未達成見込みとなっております。

表5 第2期総合戦略の数値目標・KPI達成見込み（基本目標1）

施策	項目名	当初値	目標値	令和6年度実績値	令和6年度末進捗状況	達成見込み
(数値目標)	市内従業者数	18,278人	19,100人	17,692人 ※2	未達成	×
1 産業団地進出企業や市内事業者との連携による雇用の創出	幸手中央地区産業団地における従業者数（累計）※1	582人	700人	1,119人	達成	○
	市内企業数（法人市民税均等割納税義務者数）	1,035社	1,075社	1,170社	達成	○
	空き店舗活用数（累計）※1	1件	3件	3件	達成	○
2 多様な働き方への支援	就労支援セミナー・相談会の実施回数（累計）	51回	100回	105回	達成	◎
	ふるさとハローワーク幸手による就職あっせん件数（累計）※1	965件	2,700件	1,621件	未達成	▲
	障害者就労支援センターの支援による就労者数	126人	176人	142人	未達成	▲
	シルバー人材センター会員数	369人	430人	419人	未達成	○
3 地域農業の推進	認定農業者数	30経営体	38経営体	39経営体	達成	○
	農地の利用集積面積（累計）※1	119ha	160ha	227ha	達成	◎

※1 当初値・目標値・実績値は該当年度時点での数値。

※2 令和3年度経済センサス活動調査に基づく数値。

基本目標2 新しいひとの流れをつくる

基本目標2では、観光振興や移住・定住促進、シティプロモーションを推進することで、「新しいひとの流れをつくる」ことを目指しました。

施策2「移住・定住の促進」については、全てのK P Iが達成済ですが、施策1「幸手市の特性を活かした観光振興」については、全てのK P Iが未達成の見込みです。

数値目標である人口の転出超過数については、10ページでも示したとおり、令和4年度から社会増（転入超過）となっていることから、達成する見込です。

本基本目標では、8項目中1項目が達成済み、4項目が達成見込み、3項目が未達成見込みとなっております。

表6 第2期総合戦略の数値目標・K P I達成見込み（基本目標2）

施策	項目名	当初値	目標値	令和6年度実績値	令和6年度末進捗状況	達成見込み
(数値目標)	人口の転出超過数	94人	0人	△360人	達成	○
1 幸手市の特性を活かした観光振興	権現堂堤年間観光客数	207.9万人	230万人	86.3万人	未達成	×
	観光協会ホームページアクセス数	76.2万件	94万件	67万人	未達成	×
	観光ガイド登録者数(累計)※	18人	25人	17人	未達成	▲
2 移住・定住の促進	しあわせ3世代ファミリー定住支援事業による移住者(R3)及びしあわせ家族ウェルカム補助事業による移住者(R4～)(累計)	45人	225人	239人	達成	◎
3 シティプロモーションの推進	市ホームページの年間アクセス件数	215,762件	250,000件	696,275件	達成	○
	SNSフォロワー数(累計)※	482人	1,200人	8,682人	達成	○
	ふるさと納税寄附件数	264件	500件	4,775件	達成	○

※ 当初値・目標値・実績値は該当年度時点での数値。

基本目標3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

基本目標3では、結婚・妊娠・出産・子育てに対する切れ目のない支援や、子育て環境・教育環境の向上を図ることで、「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」ことを目指しました。

施策1「結婚・妊娠・出産・子育てに対する切れ目のない支援」については、全てのKPIが達成済となっておりますが、施策2「子育てしやすい環境の整備」や、施策3「教育環境の充実と学力の向上」については、未達成が見込まれるKPIがあります。

数値目標である合計特殊出生率については、当初値を上回るものの、目標値には達しない見込みです。

本基本目標では、10項目中4項目が達成見込み、6項目が未達成見込みとなっております。

表7 第2期総合戦略の数値目標・KPI達成見込み（基本目標3）

施策	項目名	当初値	目標値	令和6年度実績値	令和6年度末進捗状況	達成見込み
(数値目標)	合計特殊出生率	0.83	1.21	0.89	未達成	▲
1 結婚・妊娠・出産・子育てに対する切れ目のない支援	SAITAMA 出会いサポートセンター登録者数	23人	35人	154人	達成	○
	子育て総合窓口の相談件数※2	4,365件	4,800件	5,632件	達成	○
2 子育てしやすい環境の整備	保育所待機児童数	0人	0人	0人	達成	○
	ファミリー・サポート・センターの提供会員数	173人	200人	120人	未達成	×
3 教育環境の充実と学力の向上	児童一人当たりのスクールガード数	0.20人	0.25人	0.25人	達成	○
	子ども110番の家設置件数(累計)※1	681件	700件	600件	未達成	×
	いじめ解消率	96.2%	100%	79.20%	未達成	×
	主体的・対話的で深い学びの視点における授業改善の推進の達成度	4.05ポイント	4.50ポイント	3.96ポイント	未達成	▲
	さってアフタースクール参加人数(累計)※1	9,324人	10,000人	8,617人	未達成	▲

※1 当初値・目標値・実績値は該当年度時点での数値。

※2 子育て総合窓口の相談件数は、令和6年度以降は子育てに関する相談件数（こども家庭センター・利用者支援事業）。

基本目標4 ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる

基本目標4では、安全・安心に暮らすための環境の整備や快適に暮らすための都市基盤の整備、生涯を通じた健康・生きがいを支援することで、「ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる」ことを目指しました。

数値目標である幸手市に住みやすいと思う市民の割合については、当初値を下回る見込みです。

本基本目標では、14項目中1項目が達成済み、4項目が達成見込み、9項目が未達成見込みとなっております。

表8 第2期総合戦略の数値目標・KPI達成見込み（基本目標4）

施策	項目名	当初値	目標値	令和6年度実績値	令和6年度末進捗状況	達成見込み
(数値目標)	幸手市に住みやすいと思う市民の割合	69.1%	80.0%	78.4% ※3	未達成	▼
1 安全・安心に暮らすための環境の整備	時間雨量30mm以下の大雨時における床下浸水（店舗内浸水を含む）の発生件数	0件	0件	0件	達成	○
	福祉避難所の指定箇所数	12箇所	16箇所	12箇所	未達成	▲
	刑法犯認知件数	367件	360件	318件	達成	○
	人身事故年間発生件数	183件	180件	128件	達成	○
2 快適に暮らすための都市基盤整備	市の公共交通機関の満足度	6.6%	70.0%	8.1% ※3	未達成	▼
	公園施設長寿命化計画における遊具整備率	30%	90%	68%	未達成	▼
	幸手駅西口土地区画整理事業の仮換地指定進捗率	36%	74%	47.2%	未達成	▲
3 生涯を通じた健康と生きがいを支援	健康寿命※1	男17.41年 女20.44年	男17.59年 女20.61年	男18.32年 女21.29年	達成	○
	健康マイレージ参加者※2	1,584人	2,000人	延べ 2,942人	達成	◎
	高齢者健康体操グループ数	38グループ	41グループ	34グループ	未達成	×
	公民館の利用率	45.8%	50%	45%	未達成	▲
	体育施設の利用率	43.1%	45%	40%	未達成	▲
	生きがいがあると思う高齢者の割合	61%	90%	56% ※3	未達成	▲

※1 各年度の数値は、前年の実績値を記載。

※2 令和6年度以降は、アプリによるALKOOマイレージ参加者を計上

※3 令和4年度調査結果に基づく数値。

II 第3期総合戦略の基本的な考え方

1 国の「地方創生2.0基本構想」について

人口減少の克服と地方創生への取組は、国と地方が一体となって取り組むものです。

「まち・ひと・しごと創生法」においても、まち・ひと・しごと創生に関する基本理念にのっとり、地方の実情に応じた総合戦略を策定し、施策を行うことが義務付けられています。

国が令和7年6月13日に策定した「地方創生2.0基本構想」における、地方創生2.0の基本姿勢及び視点については、次のとおりです。

- (1) 人口減少を正面から受け止めた上での施策展開
- (2) 若者や女性にも選ばれる地域づくり
- (3) 異なる要素の連携と「新結合」
- (4) AI・デジタルなどの新技術の徹底活用と社会実装
- (5) 都市・地方の共生関係の強化と人材循環の促進
- (6) 好事例の普遍化（点から面へ、地域の多様なステークホルダーの連携）

② 政策体系

「地方創生2.0基本構想」では、政策体系として「政策の5本柱」が次のとおり定められています。



図 22 「地方創生2.0基本構想」における政策の5本柱

2 埼玉県の「第3期埼玉県まち・ひと・しごと創生総合戦略」について

① 基本目標

埼玉県が令和7年3月に策定した「第3期埼玉県まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、5つの基本目標が掲げられています。

- 基本目標1 県内における安定した雇用を創出する～生産年齢人口減少期における経済活性化～
- 基本目標2 県内への新しいひとの流れをつくる～東京都区部への一極集中の克服～
- 基本目標3 県民の結婚、妊娠・出産、子育ての希望をかなえる～少子社会からの転換～
- 基本目標4 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守る～異次元の高齢化への挑戦～
- 基本目標5 デジタルの力を活用してまち・ひと・しごと創生を加速化・深化させる～社会全体のDX実現に向けて～

② 地域の特徴に基づく重点課題

「第3期埼玉県まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、幸手市が属する「利根地域」の課題として、次の5点が挙げられています。

- 低地市街地が多いため、台風などに対する防災・治水強化が必要である。
- 高齢化が急速に進んでおり、高齢者を支える体制の充実が必要である。
- 合計特殊出生率が県内でも低い水準で、20代の転出超過が多いため、雇用の創出や就業の支援が必要である。
- 地域資源を活かした魅力的な地域づくりをさらに進める必要がある。
- 交通利便性の高さを活かし、地域経済の活力を高め、若者・子育て世代の転入・定着促進を図る必要がある。

3 市民アンケートの分析

第3期幸手市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定にあたり、アンケート調査を実施しました（詳細はP.57 参考資料Ⅱ「アンケート調査について」を参照）。

ここでは、アンケート結果の分析を掲載します。

① 転入・転出のきっかけ

転入者には幸手市に転入したきっかけについて、転出者には幸手市から転出したきっかけについて、それぞれ質問しました。

その結果、「仕事の都合」が最も多く、次いで「住居の条件」「家庭の事情」が多くなっています。仕事関係（就職・異動・転職等）により転居を考える方が多いことが分かります。

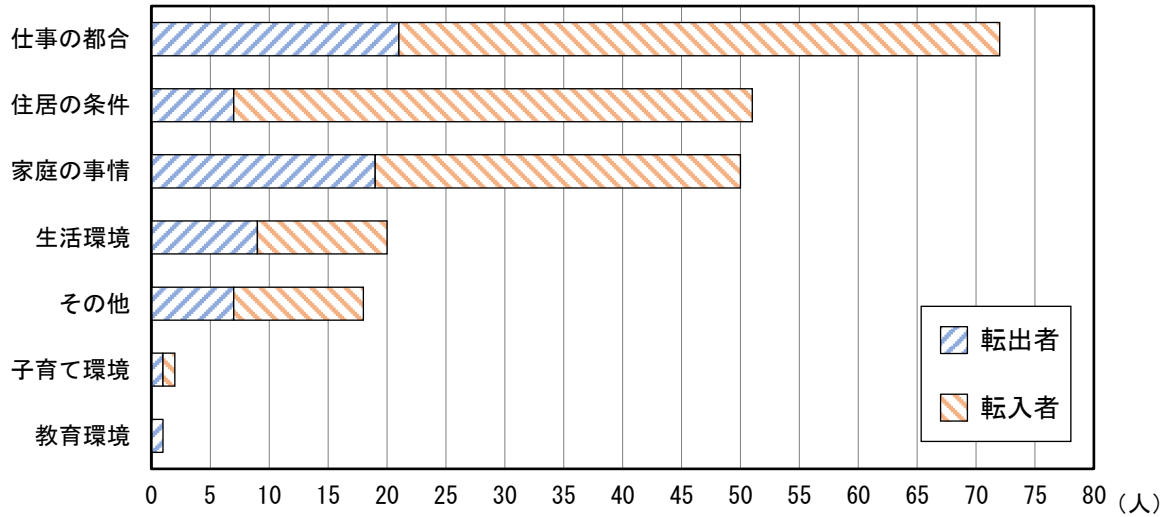


図 23 アンケート結果（転入・転出のきっかけ）

② 住むことを決めた理由

転入者には幸手市に住むことを決めた理由について、転出者には転出先に住むことを決めた理由について、それぞれ上位1～3位を質問しました。

その結果、「住宅の価格、住宅の家賃、広さ」が最も多く、次に「職場や学校までの距離」「交通アクセス」「生活の利便性」の順に多くなっています。住むことを決める際に、住宅の条件や職場・学校までの距離を重要視している方が多いことが分かります。

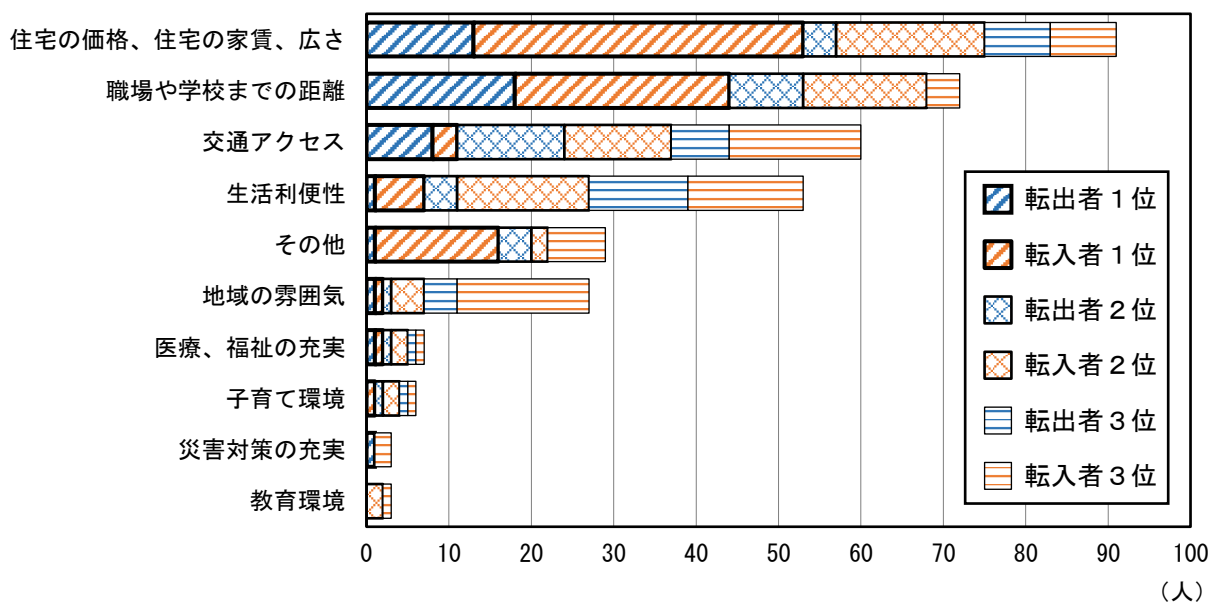


図 24 アンケート結果（住むことを決めた理由）

③ 性別年齢別の回答分析

「①転入・転出のきっかけ」の回答内容を、性別年齢（年代）別に見てみると、男性は「仕事の都合」と回答した方の割合が高くなっている一方で、女性は「家庭の事情」「住居の条件」と回答した方の割合が高くなっています。

年齢別に見てみると、男女ともに、年齢を重ねるにつれ、「仕事の都合」と回答した方の割合よりも「家庭の事情」「住居の条件」と回答した方の割合の方が多くなっています。

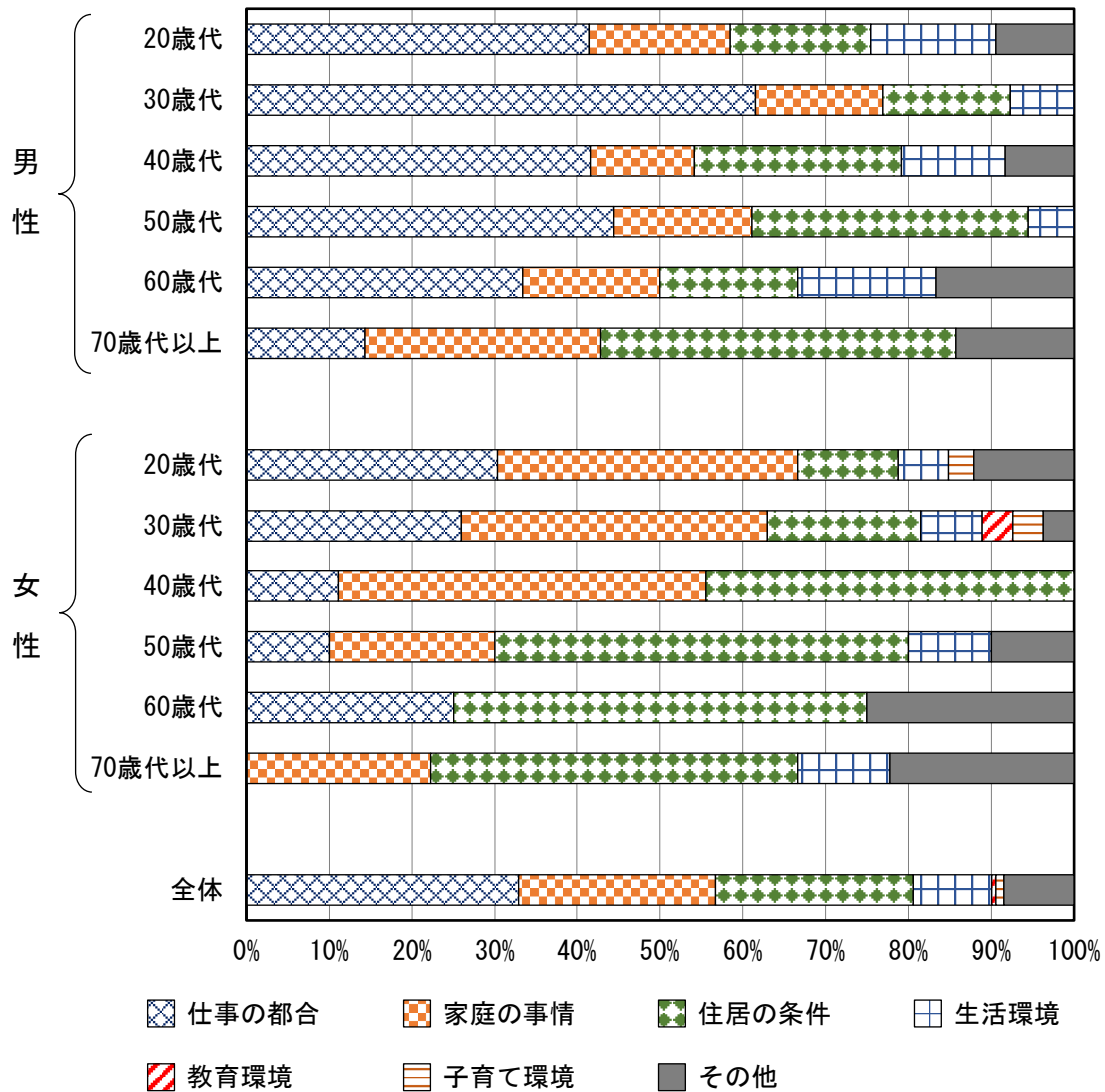


図 25 アンケートクロス集計結果（転入・転出のきっかけ）

これらのことから、人口減少を防ぐために、安定して働くことが出来る場所の確保や、子育てがしやすい環境の整備、住みやすく魅力のある地域づくり等に取り組むことが重要です。

4 第3期総合戦略の体系

① 目指すべき将来の方向（人口ビジョン）

当市の目指すべき将来の方向（人口ビジョン）は、第2期総合戦略の内容を引き継ぎ、第3期においても掲げるものとします。

- その1 若者が住みたいまち幸手（若者の定住促進）
- その2 子どもを生ま育てたいまち幸手（少子化、子育て対策）
- その3 魅力をアピールできるまち幸手（情報発信）

② 基本目標及び施策について

国の第2期総合戦略の4つの基本目標及び2つの横断的な目標を勘案し、第6次幸手市総合振興計画後期基本計画における重点対策プロジェクトとの整合を図り、本戦略では基本目標、施策を定めます。基本目標と施策の達成状況を把握するため、基本目標に対しては数値目標、施策については重要業績評価指標（KPI）を設定しています。

第3期総合戦略の数値目標・KPI（以下「指標」という。）は、原則として、当初値は令和6年度の実績数値を用いており、目標値は令和10年度までに達成すべき数値としています。令和11年度以降に目標値を定めている指標については、参考資料Ⅰにて参考目標値として記載しております。

また、指標は基本的に増加目標¹¹としておりますが、一部の数値目標等については、削減目標¹²としております。削減目標としている場合は、目標値欄に「以下」または「未満」を記載します（ゼロ目標などの場合でも同様に記載します）。

さらに、指標の測定については、表9のとおりとします

本戦略策定後は、毎年指標の進捗確認を行い、施策のフォローアップを図ります。進捗確認の際は、本戦略策定時に幸手市まち・ひと・しごと創生市民会議委員から頂いた御意見等を記載し、今後の取り組みの参考にすることとします。

表9 指標の測定方法と記載例

測定方法	本戦略での記載例	
	項目名	当初値・目標値
年間の動きを測定	年度（4月～翌年3月）	〇〇講座参加者数 〇〇人／年
	年度以外	〇〇講座参加者数（6月～翌年5月） 〇〇人／年
ある時点の状況を測定	〇〇講師登録者数（●月末時点）	〇〇人
ある時点からの累計を測定	〇〇講師養成研修参加者数（●年●月からの累計）	〇〇人

※ 国の統計数値等の場合など、上記の表記によらない場合もある。

¹¹ 「向上目標」とも呼ばれ、特定の数値や成果を増やす・達成することに焦点を当てた目標。

¹² 「低減目標」とも呼ばれ、コストやリスクなど、望ましくない要素を減らす目標。

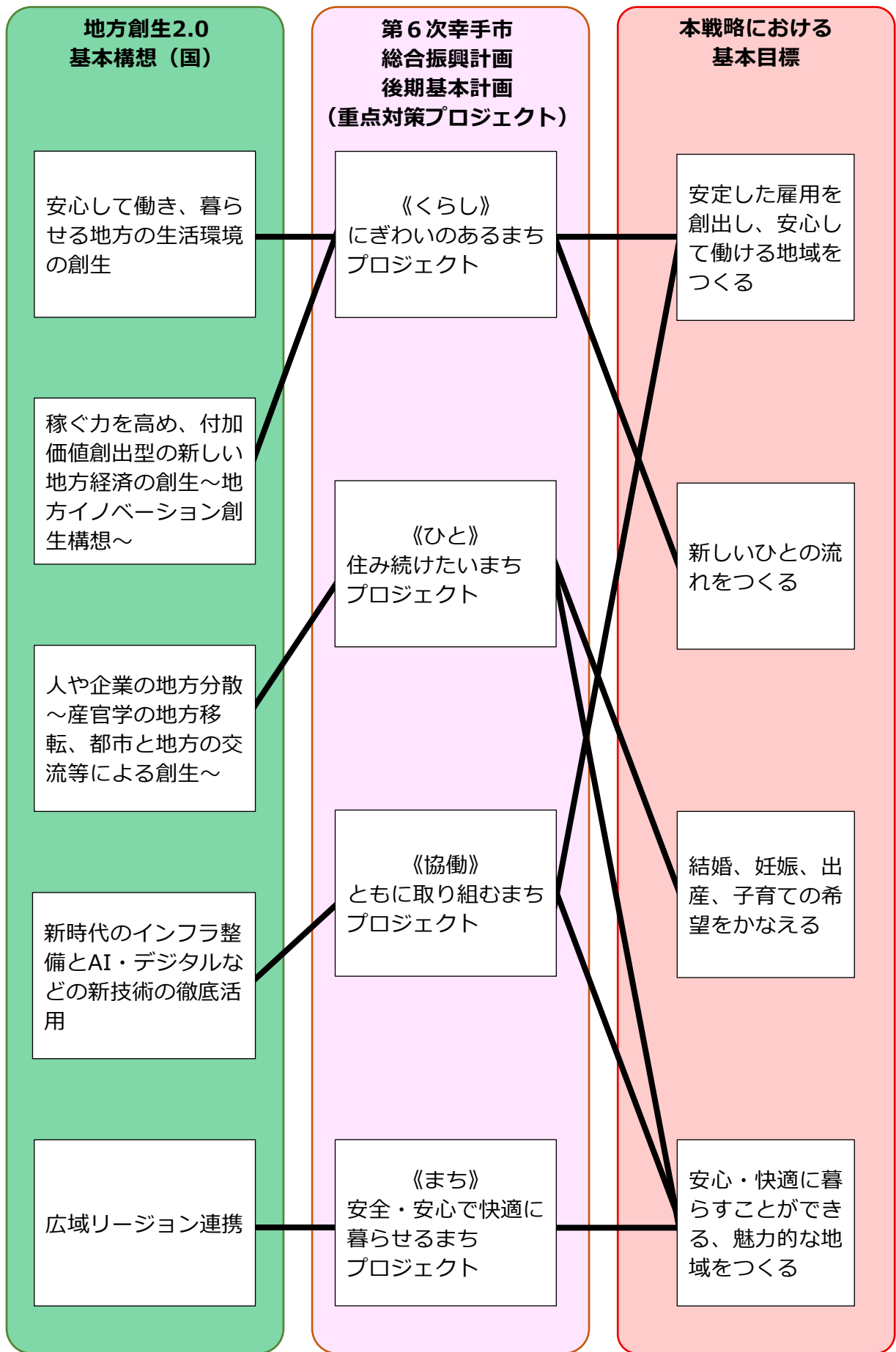


図 26 国戦略・幸手市総合振興計画と本戦略基本目標の関係

基本目標 1 安定した雇用を創出し、安心して働ける地域をつくる

施策 1
新たな雇用の創出

施策 2
多様な働き方への支援

施策 3
地域農業の推進

基本目標 2 新しい人の流れをつくる

施策 1
幸手市の特性を活かした観光振興

施策 2
移住・定住の促進

施策 3
シティプロモーションの推進

基本目標 3 結婚、妊娠、出産、子育ての希望をかなえる

施策 1
結婚から子育てまでの切れ目ない支援

施策 2
子育てしやすい環境の整備

施策 3
教育環境の充実と学力の向上

基本目標 4 安心・快適に暮らすことができる、魅力的な地域をつくる

施策 1
安全・安心に暮らすための環境の整備

施策 2
快適に暮らすための都市基盤整備

施策 3
生涯を通じた健康と生きがいくりの支援

施策 4
デジタル技術による質の高い行政サービスの提供

図 27 本戦略における施策の全体像

③ 第3期総合戦略とSDGs（持続可能な開発目標）との関係

国の横断的な目標のひとつである「地方創生SDGs¹³の実現などの持続可能なまちづくり」

との連携を図るため、第3期総合戦略の施策の推進がSDGsの達成に繋がることを表すため、特に関連があるSDGsのアイコンを基本目標ごとに表示することとしました。



図 28 SDGs（持続可能な開発目標）における17のゴール

¹³ Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略で、2015年(平成27年)9月の国連サミットにて採択された2016年(平成28年)から2030年(令和12年)までの国際目標。「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包括性のある社会を実現するための17のゴールとそれらに紐づく169のターゲットから構成されており、発展途上国のみならず、先進国自身が取り組む普遍的なもの。

Ⅲ 第3期総合戦略の基本目標及び施策

基本目標1 安定した雇用を創出し、安心して働ける地域をつくる

【基本的方向】

若い世代の転出に歯止めをかけるためには、市内での雇用機会を拡充することが必要です。このため、市内企業への働きかけを行うとともに、市内事業者やふるさとハローワークなどとの連携により、安定した雇用の創出を目指します。

また、多様化する価値観やライフスタイル・ワークスタイルを踏まえ、誰もが働きやすい就業環境づくりへの取組に対し支援します。

さらに、本市を支える商工業者に対して、商工団体と協力し、商工業の活性化に向けた取組に対する支援を行い、地域農業に対しては、農業関係団体と連携し、農業経営に対する支援、担い手の育成など、安定した経営につながる支援を行うことで地域経済の活性化を図ります。

【数値目標】

項目名	当初値	目標値
市内従業者数	17,692 人	17,800 人

【関連するSDGs】



施策1 新たな雇用の創出

圏央道（首都圏中央連絡自動車道）が開通し、幸手インターチェンジが開設され、幸手中央地区産業団地が整備されました。今後も、産業団地内で操業している企業と連携し、市民の雇用促進を図ります。

また、ふるさとハローワークと連携し、雇用機会の拡充に努めます。

さらに、既存の市内事業者及び市内で操業する事業者に対して、商工団体との協働、国・埼玉県の制度等の活用により、商工業の活性化に向けた取組や経営力向上への支援をします。

【重要業績評価指標（KPI）】

項目名	当初値	目標値
市内企業数（法人市民税均等割納税義務者数） （3月末時点）	1,170 社	1,230 社
空き店舗活用数	3 件／年	3 件／年

【取組内容】

- ① 市内事業所への雇用促進
- ② 空き店舗を活用した新規の創業支援や地域コミュニティ活性化の推進
- ③ 商工業の活性化に向けた取組に対する支援
- ④ 企業診断、経営診断の充実
- ⑤ 幸手中央地区産業団地を拡張し、市内の働く場を創出



幸手中央地区産業団地

施策2 多様な働き方への支援

若者や女性、高齢者、障がい者など働く意欲がある誰もがそれぞれの能力を発揮することができる、働きやすい雇用環境や就労に対する支援を行います。

創業希望者に対し、商工会と連携し、創業セミナー、起業支援、経営支援を行います。

【重要業績評価指標（KPI）】

項目名	当初値	目標値
障害者就労支援センターの支援による就労者数（3月末時点）	142 人	220 人
シルバー人材センター会員数（3月末時点）	419 人	460 人
ふるさとハローワーク幸手による就職あっせん件数	1,621 件/年	1,700 件/年
就労支援セミナー・相談会の実施回数（平成28年度からの累計）	105 回	130 回

【取組内容】

- ① 就職希望者へのハローワーク（公共職業安定所）や埼玉県など関係機関と連携したセミナー等の実施
- ② 市内事業所との連携による雇用機会の拡充
- ③ 内職を希望している方への支援
- ④ シルバー人材センターへの支援を通じた高齢者の働く場や機会の拡充
- ⑤ 障がい者の就労を支援する事業の実施



ふるさとハローワーク幸手

施策3 地域農業の推進

農業経営に対する支援、後継者や新たな担い手の育成・支援など、安定して農業が続けられる仕組みを整えるとともに、農業生産法人等の誘致や生産基盤となる農地の集積・集約、ほ場整備等を推進します。

また、幸手産農産物の積極的な地産地消を推進するため、農産物直売所や各種イベントにおけるPR活動など効果的な情報発信を行うことにより、市民の関心と理解を深めるとともに、農業関係団体と連携し、幸手産農産物をより多く購入できるよう販路の拡大を目指します。

さらに農業体験など農業にふれ合うことで多世代が交流し、子どもの食育や中高年の生きがいつくりにつながる機会の充実を図ります。

【重要業績評価指標（KPI）】

項目名	当初値	目標値
認定農業者数（3月末時点）	39 経営体	40 経営体
農地の利用集積面積（3月末時点）	227 ha	260 ha

【取組内容】

- ① 安定した農業経営のための支援
- ② 後継者の育成・支援、新規就農者への支援
- ③ 地元農産物のPRによる地産地消の推進
- ④ ふるさと納税の返礼品として活用するなど、幸手産特別栽培米を特に品質の高い幸手ブランド米としてPR
- ⑤ 農用地の集積やほ場整備等による生産基盤の整備
- ⑥ 農業生産法人等の誘致による高収益作物の栽培の推進
- ⑦ 農業関係団体と連携した田植え、稲刈りや野菜づくりなどの農業体験の機会の充実

基本目標 2 新しいひとの流れをつくる

【基本的方向】

市内には、権現堂堤や日光街道幸手宿をはじめ、さまざまな観光・歴史・文化資源があります。

これらの資源を有機的につなげることにより、幸手市を訪れた人が、まちなかの回遊を楽しむことができる基盤を充実させ、交流人口の増加を図ります。

また、幸手市の魅力を効果的に発信するシティプロモーションを推進するとともに、地域資源を活かし、交流人口拡大に向けた観光振興やふるさと納税などをきっかけに幸手市と継続的に多様な形で積極的に関わる関係人口への発展、移住・定住促進に向けた取組を推進します。

【数値目標】

項目名	当初値	目標値
人口の社会増加数（令和8年1月からの累計）	0 人	150 人

【関連するSDGs】



施策1 幸手市の特性を活かした観光振興

主要な観光資源である権現堂堤、権現堂調整池（行幸湖）や日光街道幸手宿などの市内の名所、史跡と商店街、公園、幸手駅などを結ぶ観光ルートを有機的につなげ、交流人口の増加を目指します。

【重要業績評価指標（KPI）】

項目名	当初値	目標値
権現堂堤年間観光客数（桜・あじさい・ひまわり・曼殊沙華・水仙まつり）	86.3 万人／年	100.0 万人／年
観光協会ホームページアクセス数	67 万件／年	70 万件／年
観光ガイド登録者数（3月末時点）	17 人	25 人

【取組内容】

- ① 観光シーズンにおける県営権現堂公園周辺道路の交通渋滞緩和対策
- ② 市内回遊型観光と市内経済効果のマッチング
- ③ 観光ガイドによる観光案内の充実
- ④ 「日光街道」をキーワードとした観光振興に向けた沿線自治体との連携
- ⑤ 幸手らしい個性と商品訴求力のある特産品の開発
- ⑥ 幸手市観光協会の社団法人化支援
- ⑦ 農産物直売所や観光情報をホームページ、SNS等を活用しPR
- ⑧ 道の駅等の整備による新しいひとの流れの創出
- ⑨ 旧吉田中学校木造校舎など歴史的な地域資源を観光資源として活用する取組



権現堂桜堤

施策2 移住・定住の促進

幸手市内への移住・定住促進をより一層PRし、移住・定住支援に関する支援、空き家を活用した移住支援を行います。

また、埼玉県や他市町村と連携し、移住促進のPRを行います。

【重要業績評価指標（KPI）】

項目名	当初値	目標値
転入者数（令和8年1月からの累計）	0人	5,850人

【取組内容】

- ① 幸手市への移住・定住のPR及び支援
- ② 空き家を活用した移住支援
- ③ 埼玉県や他市町村との連携による移住促進のPR



移住・定住イベントでのPR

施策3 シティプロモーションの推進

幸手市の魅力を効果的に発信することで、幸手市に愛着を持ってもらい、地域に関わる人を増やし、関係人口及び移住・定住人口の増加を目指します。

具体的には、市ホームページでの情報発信のほか、イベントやふるさと納税等によるPR、SNSや現在作製中のシティプロモーション映画などを活用した魅力発信に取り組みます。

【重要業績評価指標（KPI）】

項目名	当初値	目標値
市ホームページの年間アクセス件数	70 万件／年	73 万件／年
ふるさと納税寄附金額	5,000 万円／年	15,000 万円／年
SNSフォロワー数（3月末時点）	8,682 アカウト	9,100 アカウト

【取組内容】

- ① スライダーなどを活用したホームページでの情報発信の充実
- ② イベント開催時の来訪者へのPR活動
- ③ ふるさと納税やイベント等を通じた関係人口増加への取組
- ④ SNS等を活用した市民参加型のまちの魅力の発信
- ⑤ シティプロモーション映画を活用した関係人口の創出



イベントにおいて幸手市をPR

基本目標3 結婚、妊娠、出産、子育ての希望をかなえる

【基本的方向】

子育て世代の転入・定住化を促進するとともに、合計特殊出生率を高めることにより人口の自然増を実現するためには、結婚から妊娠・出産・子育てまでのそれぞれのライフステージに応じた支援を切れ目なく行う必要があります。

また、地域における子育て支援を推進し、子育てをみんなで支える環境づくりに努めるとともに、保護者が仕事と子育ての両立ができるように子育てしやすい保育環境の整備を推進します。

さらに、子どもが持つ力を引き出し、豊かな心をはぐくむ教育を充実させるための教育環境の充実、学力の向上、時代の変化に応じた教育の充実を図ります。

【数値目標】

項目名	当初値	目標値
合計特殊出生率	0.89	1.24

【関連するSDGs】



施策1 結婚から子育てまでの切れ目ない支援

結婚を希望する方への出会いの機会を創出するため、SAITAMA出会いサポートセンターの活用や婚活イベント等を実施し、結婚に対する支援を行います。

また、妊娠・出産・子育てに対する多様な相談、情報の提供、経済的な支援など、子育て支援に関する切れ目ない支援を行います。

さらに、すべての子どもと子育てをする保護者の健康づくりを支援するとともに、安心して子どもを産み、子育てができるようにするため、産前、産後等のサポート体制の充実を図るとともに、保健・福祉・医療に関わるサービスが総合的かつ安心して受けられるよう関係機関との連携に努めます。

【重要業績評価指標（KPI）】

項目名	当初値	目標値
子育てに関する相談件数（こども家庭センター・利用者支援事業）	5,632 件／年	5,700 件／年
SAITAMA出会いサポートセンター登録者数（3月末時点）	154 人	215 人

【取組内容】

- ① SAITAMA出会いサポートセンターを活用した婚活支援
- ② 婚活イベント等の実施
- ③ こども家庭センターの運営
- ④ 子育て支援情報の提供
- ⑤ 妊婦健診の費用助成
- ⑥ こんにちは赤ちゃん訪問、産後ケアの実施
- ⑦ 子ども医療費の無料化
- ⑧ 小児救急医療体制の充実

施策2 子育てしやすい環境の整備

仕事と子育ての両立ができるような保育環境を整備するため、保育所や放課後児童クラブ等の保育サービス、一時保育や病児保育など、働く子育て世帯のニーズにあった子育て支援サービスを実施します。

また、子育て中の親子が仲間づくりや地域の人々とのつながりをもつことや、地域における育児の相互援助活動の活性化等を推進し、子育てをみんなで支える環境づくりに努めます。

【重要業績評価指標（KPI）】

項目名	当初値	目標値
保育所待機児童数（3月末時点）	0 人	0 人以下
ファミリー・サポート・センターの提供会員数（3月末時点）	120 人	130 人

【取組内容】

- ① こども家庭センターの運営（再掲）
- ② 子育て支援情報の提供（再掲）
- ③ 保育ネット情報事業の実施
- ④ 保育所入所予約事業の実施
- ⑤ ファミリー・サポート・センターの運営
- ⑥ 一時保育の実施
- ⑦ 乳児等通園支援事業の実施
- ⑧ 延長保育の実施
- ⑨ 病児保育の実施
- ⑩ 多子世帯の保育料の軽減
- ⑪ 子どものショートステイ事業の実施
- ⑫ 地域子育て支援拠点事業の実施
- ⑬ 保育所開放事業の実施
- ⑭ 学校と地域との交流の推進
- ⑮ コミュニティ・スクール事業の実施

施策3 教育環境の充実と学力の向上

安全で快適な学校教育環境を確保するため、老朽化した学校施設の改修や長寿命化を検討します。よりよい教育環境を整備するため、学校の統廃合を含めた小・中学校の適正配置の検討を行います。

児童・生徒が安心して学校に通うことができるように、地域、PTA及び警察と連携し、通学路の安全確保に努めるほか、いじめや不登校の問題に対して、早期発見、早期対応に努めるとともに、生活困窮、障がい、国籍などにより個別に対応が必要な子どもに対しては、幼稚園、保育所、小・中学校及び市の関係課で連携し、必要な支援を行います。

また、地場産食材である幸手産農産物を活用した安全な給食の運営に努めます。

さらに、学力向上を図るために、基礎・基本の指導の充実に加え、児童・生徒が自ら学び、自ら考える力を育成する教育を推進するとともに、時代の変化に応じた情報化社会に対応できる人材を育成するため、ICT（情報通信技術）教育に取り組みます。

【重要業績評価指標（KPI）】

項目名	当初値	目標値
市立中学校生徒のうち、実用英語技能検定を受験した生徒の割合	8.23 %	12.00 %
児童一人当たりのスクールガード数 （3月末現在）	0.25 人	0.28 人
いじめ解消率（3月末現在）	79.20 %	100.00 %
主体的・対話的で深い学びの視点における授業改善の推進の達成度	3.96 ポイント	4.40 ポイント

【取組内容】

- ① 体育館への空調設置や校舎のLED化
- ② 将来的なまちづくりを見据え、「個別施設計画」等に基づき小・中学校の適正配置を検討
- ③ スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、相談員の配置などによる教育相談体制の充実
- ④ 小・中学校教育支援員による生活支援及び学習支援
- ⑤ 日本語指導員による学習支援
- ⑥ 就学困難な義務教育児童・生徒等の保護者への就学援助
- ⑦ 幸手産農産物を活用した安全で安心な学校給食の運営
- ⑧ 学校給食費の無償化
- ⑨ Society5.0を見据えたICT教育の推進
- ⑩ 幸手市統一学力調査の実施
- ⑪ 実用英語技能検定の取得支援



令和7年度学校給食調理コンクール受賞献立

基本目標4 安心・快適に暮らすことができる、魅力的な地域をつくる

【基本的方向】

安全で安心して暮らすことができる環境を整備するため、防災・防犯体制の充実を推進します。

また、快適に暮らせるまちをつくるため、長期的視点に立ち、計画的な都市基盤整備を推進するとともに、市民ニーズなどを踏まえ、市内の公共交通の利便性の確保に努めます。

さらに、誰もが生涯を通じて健康で、いきいきと活動的に生活するための、生きがいづくりにつながる活動に対しての支援を行うほか、デジタル技術を活用し、誰もが利用しやすい、質の高い行政サービスを目指します。

【数値目標】

項目名	当初値	目標値
幸手市に住みやすいと思う市民の割合	78.4 % (令和4年度)	80.0 %

【関連するSDGs】



施策1 安全・安心に暮らすための環境の整備

防災・防犯体制の充実を推進することなど安全で安心して暮らすことができる環境を整備します。

【重要業績評価指標（KPI）】

項目名	当初値	目標値
時間雨量30mm以下の大雨時における床下浸水（店舗内浸水を含む）の発生件数	0 件／年	0 件／年 以下
福祉避難所の指定箇所数（3月末時点）	12 箇所	15 箇所
刑法犯認知件数	318 件／年	310 件／年 以下
人身事故年間発生件数	128 件／年	100 件／年 以下

【取組内容】

- ① 地域住民との協働による災害発生時の避難所運営のための体制づくりの強化
- ② 自主防災組織や消防団との連携による地域防災力の向上
- ③ 河川やポンプ場の整備・更新及び雨水管渠整備
- ④ 洪水・内水ハザードマップの更新
- ⑤ 高齢者、障がい者など特別の支援が必要となる人が安心して避難できるような福祉避難所の設置
- ⑥ ホームページ等による危機管理、災害に関する啓発・情報提供の充実
- ⑦ 埼玉県と連携した感染症などの健康危機管理体制の構築
- ⑧ 空き家の発生抑制、活用・除却、適正管理などの取組方針に基づいた空き家対策の推進
防犯パトロールによる防犯対策の強化
- ⑨ 高齢者・障がい者への見守り支援の推進
- ⑩ カーブミラーやガードレールなどの交通安全施設の整備
- ⑪ 防犯灯・街路灯の設置及びLED化の推進

施策2 快適に暮らすための都市基盤整備

緑豊かな幸手らしい景観を保全しながら快適に暮らせるまちをつくるため、長期的視点に立ち、計画的な都市基盤整備を推進します。

また、さらなる高齢化が進むなかで、市民ニーズなどを踏まえ、だれもが快適に移動できる環境を目指し、公共交通の利便性の確保に努めます。

【重要業績評価指標（KPI）】

項目名	当初値	目標値
公園施設長寿命化計画における遊具整備率（3月末時点）	68.1 %	100.0 %
幸手駅西口土地区画整理事業の仮換地指定進捗率（3月末時点）	47.2 %	77.1 %
市が運行する公共交通の満足度	8.1 % (令和4年度)	70.0 %

【取組内容】

- ① 緑や公園など自然の中で子どもや高齢者が楽しく過ごせる環境づくり
- ② 幸手駅西口土地区画整理事業の推進
- ③ 幸手駅周辺の市街地整備の検討
- ④ 市民ニーズを踏まえた利便性の高い公共交通手段の検討
- ⑤ 鉄道の発着本数の増加、特急電車の停車の要望



幸手市内循環バス（中央コース）

施策3 生涯を通じた健康と生きがいつくりの支援

誰もがいつまでもいきいきと住み慣れた地域で健康に生活するために、自ら積極的に健康づくりに取り組む市民を増やすための取組を推進します。

また、人生百年時代を見越して、生涯学習、文化芸術活動、生涯スポーツ・レクリエーション及びコミュニティ活動などを通じて、いきいきと活動的に生活することを推進する取組を支援します。

【重要業績評価指標（KPI）】

項目名	当初値	目標値
健康寿命（男性）（前年）	18.32 年	18.83 年
健康寿命（女性）（前年）	21.29 年	21.36 年
体育施設の利用率	40.0 %	50.0 %
高齢者健康体操グループ数（3月末時点）	34 グループ	43 グループ
認知症サポーター養成講座受講者数 （平成21年度からの累計）	3,001 人	3,080 人
公民館の利用率	45.0 %	50.0 %

【取組内容】

- ① 特定健康診査・各種検診の実施
- ② 介護予防事業の充実
- ③ 生涯学習・文化芸術活動を通じてさまざまな世代が交流できる場の提供
- ④ コミュニティ活動、ボランティア活動の推進
- ⑤ 生涯スポーツ・レクリエーションを通じた健康づくり
- ⑥ シルバー人材センターへの支援を通じた高齢者の働く場や機会の拡充（再掲）

施策4 デジタル技術による質の高い行政サービスの提供

AIやRPA、オンライン申請、キャッシュレス決済などの導入により、窓口業務の効率化と利便性向上を図ります。さらに、行政データの利活用や住民向けアプリの活用を通じて、迅速かつ分かりやすい情報提供を実現し、誰もが利用しやすいサービス環境を整備します。

【重要業績評価指標（KPI）】

項目名	当初値	目標値
公民館におけるスマートフォン教室の開催件数	20 件／年	20 件／年
電子申請可能手続きの種類（3月末時点）	25 件	50 件
コンビニ交付での証明書発行枚数	9,599 枚／年	16,000 枚／年

【取組内容】

- ① 書かない・待たない・回らない市役所の実現
- ② 市民一人ひとりに寄り添った行政サービスの提供
- ③ コンビニ交付の拡充・利用促進
- ④ AIチャットボットの導入
- ⑤ デジタルデバイド対策の推進
- ⑥ 自治会活動のデジタル化を支援

参考資料

I 第3期総合戦略で設定した数値目標・KPI

当初値については、特段記載が無い場合は、令和6年度末時点の数値です。

令和11年度以降に目標値を定めている基本目標・KPIについては、参考目標値として記載しております。

基本目標	施策	(再掲)			参考目標値		
		項目名	当初値	目標値	目標値	目標年度	
1 働ける地域をつくる 安定した雇用を創出し、安心して	(数値目標)	市内従業者数	17,692人	17,800人	18,500人	2032 (R14)	
	1 新たな雇用の創出	市内企業数（法人市民税均等割納税義務者数）（3月末時点）	1,170社	1,230社			
		空き店舗活用数	3件/年	3件/年			
	2 多様な働き方への支援	障害者就労支援センターの支援による就労者数（3月末時点）	142人	220人			
		シルバー人材センター会員数（3月末時点）	419人	460人			
		ふるさとハローワーク幸手による就職あっせん件数	1,621件	1,700件			
	3 地域農業の推進	就労支援セミナー・相談会の実施回数（平成28年度からの累計）	105回	130回			
		認定農業者数（3月末時点）	39経営体	40経営体			
			農地の利用集積面積（3月末時点）	227ha	260ha		
	2 新しいひとの流れをつくる	(数値目標)	人口の社会増加数（令和8年1月からの累計）	0人	150人		
1 幸手市の特性を活かした観光振興		権現堂堤年間観光客数（桜・あじさい・ひまわり・曼殊沙華・水仙まつり）	86.3万人	100.0万人			
		観光協会ホームページアクセス数	67万件	70万件			
		観光ガイド登録者数（3月末時点）	17人	25人			
2 移住・定住の促進		転入者数（令和8年1月からの累計）	0人	5,850人			
		3 シティプロモーションの推進	市ホームページの年間アクセス件数	70万件	73万件		
ふるさと納税寄附金額			5,000万円	15,000万円			
SNSフォロワー数（3月末現在）			8,682アカウント	9,100アカウント			

基本目標	施策	(再掲)			参考目標値	
		項目名	当初値	目標値	目標値	目標年度
3 結婚、妊娠、出産、子育ての希望をかなえる	(数値目標)	合計特殊出生率	0.89	1.24	1.25	2030 (R12)
	1 結婚から子育てまでの切れ目ない支援	子育てに関する相談件数（こども家庭センター・利用者支援事業）	5,632件	5,700件		
		SAITAMA出会いサポートセンター登録者数（3月末時点）	154人	260人		
	2 子育てしやすい環境の整備	保育所待機児童数（3月末現在）	0人	0人		
		ファミリー・サポート・センターの提供会員数（3月末現在）	120人	130人		
	3 教育環境の充実と学力の向上	市立中学校生徒のうち、実用英語技能検定（市内中学校を準会場としたものに限る）を受験した生徒の割合	8.23%	12.00%		
		児童一人当たりのスクールガード数（3月末現在）	0.25人	0.28人		
		いじめ解消率（3月末現在）	79.20%	100.00%		
		主体的・対話的で深い学びの視点における授業改善の推進の達成度	3.96 ポイント	4.40 ポイント		
	4 安心・快適に暮らすことができる、魅力的な地域をつくる	(数値目標)	幸手市に住みやすいと思う市民の割合	78.4% (R04)	80.0%	
1 安全・安心に暮らせる環境の整備		時間雨量30mm以下の大雨時における床下浸水（店舗内浸水を含む）の発生件数	0件	0件以下		
		福祉避難所の指定箇所数	12箇所	15箇所		
		刑法犯認知件数	318件	310件以下		
		人身事故年間発生件数	128件	100件以下		
2 快適に暮らせる都市基盤の整備		公園施設長寿命化計画における遊具整備率（3月末時点）	68.1%	100.0%		
		幸手駅西口土地区画整理事業の仮換地指定進捗率（3月末時点）	47.2%	77.1%	100.0%	2030 (R12)
		市の公共交通機関の満足度	8.1% (R04)	70.0%		
3 生涯を通じた健康と生きがいづくりの支援		健康寿命（男性）（前年）	18.32年	18.83年		
		健康寿命（女性）（前年）	21.29年	21.36年		
		体育施設の利用率	40.0%	50.0%		
		高齢者健康体操グループ数（3月末時点）	34 グループ	43 グループ		
		認知症サポーター養成講座受講者数（平成21年度からの累計）	3,001人	3,080人		
4 デジタル技術を活用した質の高い行政サービスの提供		公民館におけるスマートフォン教室の開催件数	20件	20件		
		電子申請可能手続きの種類（3月末時点）	25件	50件		
	コンビニ交付での証明書発行枚数	9,599枚	16,000枚			

Ⅱ アンケート調査について

第3期幸手市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定にあたり、「第6次幸手市総合振興計画 後期基本計画」策定の際に実施したアンケート結果を活用したほか、次のアンケート調査を実施しました。

1 アンケート調査の概要

「転出者調査」「転入者調査」の2種類を実施しました。

	転出者調査	転入者調査
調査対象	令和7年4月1日から令和7年11月21日までに市役所に来庁されて転出手続きを行った方（1世帯につき1人）	令和7年4月1日から令和7年11月21日までに市役所に来庁されて転入手続きを行った方（1世帯につき1人）
回収数	59人	125人
回収率	13.2%	7.6%
調査方法	市民課窓口にて配布・回答 (回答は、市民課に設置した回収箱またはWebフォーム)	
調査期間	令和7年4月1日～令和7年11月21日	

2 注記

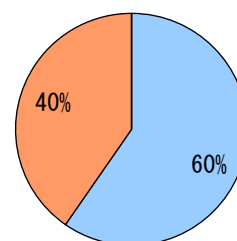
- 図表中の「N」(=Number)は、設問への回答者数を示しています。
- 自由記載欄の回答については、誤字・脱字の訂正等を除き、原文のまま掲載しています。

3 アンケート結果

① 転出者アンケートの結果

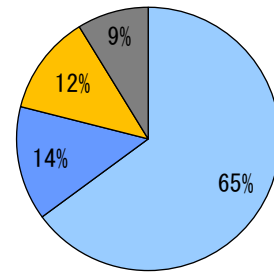
問1 あなたの性別を教えてください。

■ 男性	34人
■ 女性	23人
その他	0人
小計(N)	57人
無効・無回答	2人
合計	59人



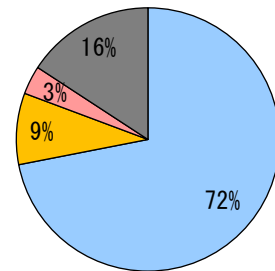
問2 あなたの年齢を教えてください。

18～29歳	37人
30～39歳	8人
40～49歳	7人
50～59歳	2人
60～69歳	1人
70歳以上	2人
小計(N)	57人
無効・無回答	2人
合計	59人



問3 転出される方はどなたですか。

単身(ひとり暮らし)	41人
夫婦のみ	5人
親と子	2人
その他	9人
小計(N)	57人
無効・無回答	2人
合計	59人



【その他内訳】
子/恋人/同棲(各2人)、無回答(3人)

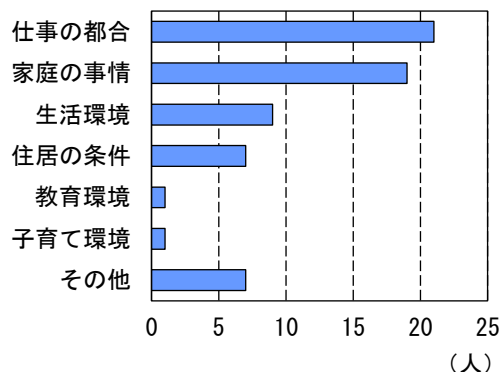
問4 転出先を教えてください。

埼玉県久喜市	6人
埼玉県春日部市	4人
栃木県下野市	各2人
埼玉県さいたま市・上尾市・加須市・蓮田市・松伏町 東京都台東区・港区	
北海道札幌市	各1人
茨城県古河市・取手市	
群馬県伊勢崎市	
埼玉県蕨市・朝霞市・狭山市・鶴ヶ島市・ふじみ野市・宮代町・杉戸町	
千葉県船橋市	
東京都足立区・板橋区・江戸川区・渋谷区・杉並区・世田谷区・豊島区・練馬区・ 青梅市・三鷹市・多摩市	
神奈川県横須賀市	
石川県白山市	
静岡県静岡市	
三重県志摩市	
大阪府大阪市	
広島県三原市	
アメリカ合衆国ハワイ州	

小計(N) 56人
無効・無回答 3人
合計 59人

問5 転出のきっかけをお選びください（最大3つまで）。

仕事の都合（転職・転勤等）	21人
家庭の事情（結婚・子育て・介護等）	19人
住居の条件（持ち家の購入、家賃、広さ等）	7人
生活環境（通勤・通学・利便性等）	9人
教育環境（学校等）	1人
子育て環境（子育て相談窓口、保育所等）	1人
その他	7人

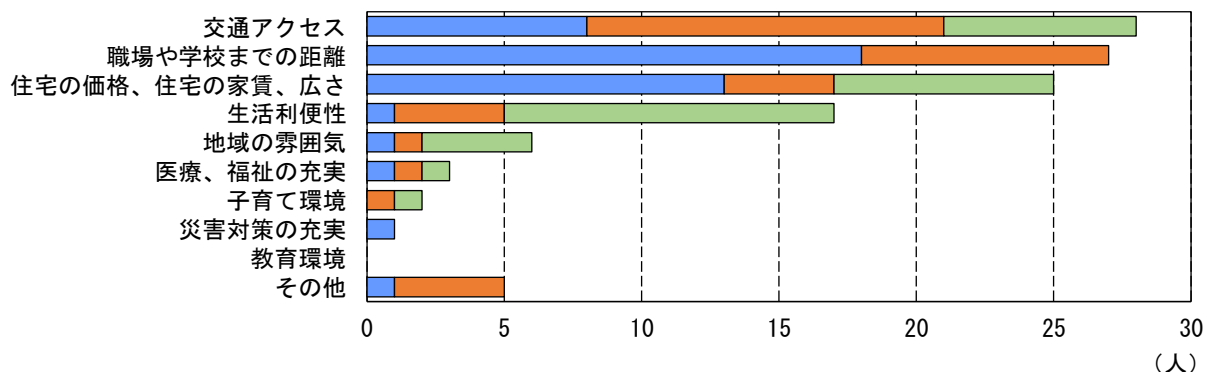


【その他内訳】

同棲（5人）、二人暮らし（1人）、無回答（1人）

問6 転出先に住むことを決めた理由の上位3つ（それぞれ1つずつ）を選んでください。

選択肢	1位	2位	3位	小計(N)	無効	合計
住宅の価格、住宅の家賃、広さ	13人	4人	8人	25人	4人	29人
教育環境（学校等）	0人	0人	0人	0人	4人	4人
子育て環境（子育て相談窓口、保育所等）	0人	1人	1人	2人	3人	5人
医療、福祉の充実	1人	1人	1人	3人	3人	6人
災害対策の充実	1人	0人	0人	1人	3人	4人
職場や学校までの距離	18人	9人	0人	27人	4人	31人
交通アクセス（駅やバスの便）	8人	13人	7人	28人	4人	32人
生活利便性（スーパー、病院等）	1人	4人	12人	17人	4人	21人
地域の雰囲気（人々の交流、地域活動等）	1人	1人	4人	6人	4人	10人
その他	1人	4人	0人	5人	3人	8人

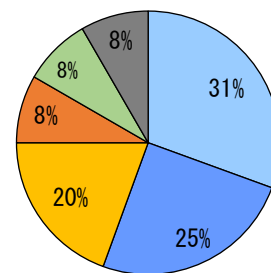


【その他内訳】

町がきれい／仕事での異動／転勤のため／地元だから／人口、少子高齢化（各1人）

問7 幸手市が人口減少に対して改善すべきと思う点を、1つお教えてください。

結婚や子育ての支援	11人
教育環境の充実	3人
働く場所の確保	7人
医療・福祉環境の充実	3人
公共交通などの生活基盤の充実	9人
その他	3人



小計(N) 36人
無効・無回答 23人
合計 59人

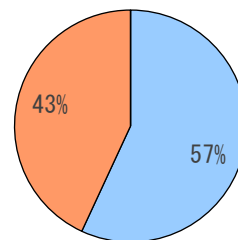
【その他内訳】

ゴミ袋の値段が高いから安くしてほしい／わからない／なし（各1人）

② 転入者アンケートの結果

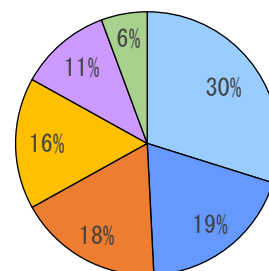
問1 あなたの性別を教えてください。

■ 男性	70 人
■ 女性	53 人
■ その他	0 人
小計 (N)	123 人
無効・無回答	2 人
合計	125 人



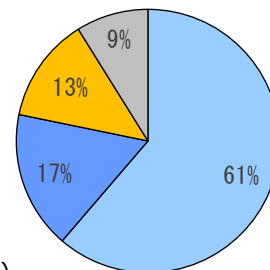
問2 あなたの年齢を教えてください。

■ 18～29歳	37 人
■ 30～39歳	24 人
■ 40～49歳	20 人
■ 50～59歳	22 人
■ 60～69歳	7 人
■ 70歳以上	14 人
小計 (N)	124 人
無効・無回答	1 人
合計	125 人



問3 転入される方はどなたですか。

■ 単身 (ひとり暮らし)	76 人
■ 夫婦のみ	21 人
■ 親と子	16 人
■ その他	11 人
小計 (N)	124 人
無効・無回答	1 人
合計	125 人



【その他内容】

同棲／パートナー／友人 (各2人)、婚約者 (各1人)、無回答 (4人)

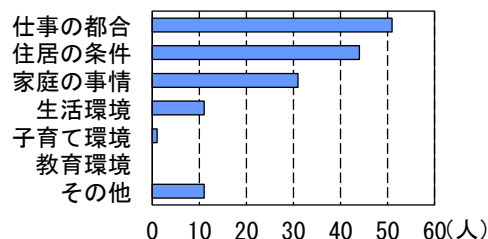
問4 転入前のお住まいを教えてください。

埼玉県久喜市	12 人
埼玉県春日部市	10 人
埼玉県さいたま市	8 人
埼玉県越谷市	7 人
埼玉県加須市	5 人
埼玉県熊谷市・川口市	各 4 人
埼玉県草加市、神奈川県川崎市	各 3 人
埼玉県所沢市・蓮田市・杉戸町、東京都江東区・福生市、長野県佐久市、大阪府大阪市	各 2 人
北海道札幌市・七飯町、青森県つがる市、秋田県鹿角市、宮城県塩竈市、茨城県古河市・八千代町・五霞町、栃木県宇都宮市・小山市・鹿沼市・佐野市・矢板市、群馬県千代田町、埼玉県川越市・行田市・羽生市・深谷市・狭山市・上尾市・戸田市・志木市・坂戸市・日高市・鶴ヶ島市・白岡市・宮代町・伊奈町、千葉県松戸市・浦安市・富里市、東京都新宿区・品川区・大田区・世田谷区・荒川区・豊島区・足立区・江戸川区・小平市、長野県小諸市、静岡県静岡市、愛知県一宮市・弥富市、三重県鈴鹿市・伊賀市、滋賀県大津市、鳥取県鳥取市、愛媛県松山市、高知県高知市、福岡県福岡市、佐賀県鳥栖市、大分県大分市、鹿児島県南さつま市	各 1 人

小計 (N) 123 人
無効・無回答 2 人
合計 125 人

問5 転入のきっかけをお選びください（最大3つまで）。

仕事の都合（転職・転勤等）	51人
家庭の事情（結婚・子育て・介護等）	31人
住居の条件（持ち家の購入、家賃、広さ等）	44人
生活環境（通勤・通学・利便性等）	11人
教育環境（学校等）	0人
子育て環境（子育て相談窓口、保育所等）	1人
その他	11人

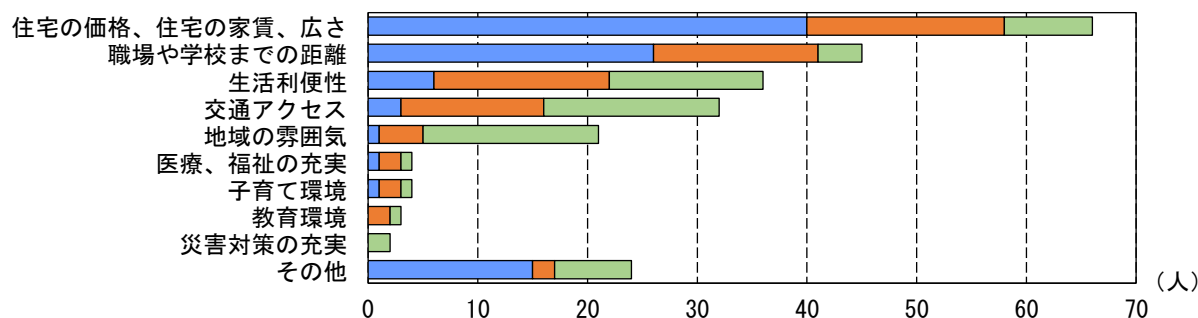


【その他内訳】

通院／（市外の）実家の売却／幸手駅の綺麗さ（リニューアル）、駅前広場の大きさ、綺麗さ、権現堂など／離婚／いやがらせをされたため（各1人）、無回答（6人）

問6 幸手市に住むことを決めた理由の上位3つ（それぞれ1つずつ）を選んでください。

選択肢	1位	2位	3位	小計(N)	無効	合計
住宅の価格、住宅の家賃、広さ	40人	18人	8人	66人	6人	72人
教育環境（学校等）	0人	2人	1人	3人	3人	6人
子育て環境（子育て相談窓口、保育所等）	1人	2人	1人	4人	4人	8人
医療、福祉の充実	1人	2人	1人	4人	4人	8人
災害対策の充実	0人	0人	2人	2人	4人	6人
職場や学校までの距離	26人	15人	4人	45人	4人	49人
交通アクセス（駅やバスの便）	3人	13人	16人	32人	4人	36人
生活利便性（スーパー、病院等）	6人	16人	14人	36人	4人	40人
地域の雰囲気（人々の交流、地域活動等）	1人	4人	16人	21人	4人	25人
その他	15人	2人	7人	24人	3人	27人



【その他内訳】

実家が幸手市内・幸手市近辺にある（4人）、家族が幸手市内・幸手市近辺に居住（2人）、勤務先からの距離／以前幸手市に住んでいた／仕事の都合／仕事を辞めた／自然／就職／夫の地元（各1人）、無回答（11人）

問7 幸手市での生活で期待していることは何ですか。

住みやすい環境（21人）、特になし（14人）、利便性（6人）、子育て支援（5人）、ごみ袋の値下げ／治安の良さ／家賃（各2人）、親戚が近くにいること／食事／桜まつり／サービス／交通アクセス／親切な行政サービス／出来ないことのフォロー／土地の広さ／リスタート／老後の心配解消／趣味のゴルフを楽しみたい／平和に仲良く／素晴らしい地域柄（各1人）、無回答（60人）

問8 今まで住んでいた場所で不満に感じていたことは何ですか。

特に無し（28人）、住居関係（家賃・広さ等）／交通が不便（各7人）、ごみ関係（4人）、騒音／治安の悪さ／自然が少ない／通勤関係／交通渋滞／子供の通学関係（遠い・通学が危険）／買い物不便（各2人）、同居人トラブル／色々ある／飲食店が近所がない／検診などの通知等がない／生活利便性の悪さ／人が非常に多く落ち着かなかった／津波の心配が尽きない／都市部で仕事とプライベートのオンオフがつけづらかった／近隣トラブル／病院、学校の小ささ／子供をみてくれる親族が近くにいなかった／道がせまい（各1人）、無回答（60人）

Ⅲ 用語説明

	脚注 No.	用語名	説明	初出 ページ
え	13	SDGs	Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略で、2015年(平成27年)9月の国連サミットにて採択された2016年（平成28年）から2030年（令和12年）までの国際目標。「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包括性のある社会を実現するための17のゴールとそれらに紐づく169のターゲットから構成されており、発展途上国のみならず、先進国自身が取り組む普遍的なもの。	36
こ	7	合計特殊出生率	一人の女性が生涯に何人の子供を産むかを推計したもので、15歳～49歳の女性の年齢別出生率を合計した数値。合計特殊出生率では、人口構成による影響（出産可能な年齢の女性の数が多ければ、女性1人当たりで生む子どもの数が減っている場合でも増加するなど）を排除して比較することができる。	10
	4	高齢化率	総人口に占める高齢者人口の割合。	4
	3	高齢者人口	65歳以上人口。統計分野では「老年人口」と呼ぶ。	4
さ	12	削減目標	「低減目標」とも呼ばれ、コストやリスクなど、望ましくない要素を減らす目標。	33
し	5	自然動態	出生や死亡など生物学的要因による人口の変化。出生数から死亡数を引いた数。	9
	6	社会動態	転入・転出といった、社会的要因による人口の変化。転入数から転出数を引いた数。	9
	9	人口ピラミッド	ある国や地域の人口を男女別・年齢別にグラフ化したもの。グラフの形状（「富士山型」「つりがね型」「つぼ型」など）から、その社会の人口構造、将来の人口増減などを視覚的に把握することができる。	15
せ	2	生産年齢人口	15～64歳人口。	4
そ	11	増加目標	「向上目標」とも呼ばれ、特定の数値や成果を増やす・達成することに焦点を当てた目標。	33
ね	1	年少人口	0～14歳人口。	4
み	8	未婚率	特定の年齢層の人口に占める未婚者数の割合。全年齢層の未婚率は、15歳以上人口に占める未婚者数の割合。	13
ろ	10	労働力率	人口（労働力状態「不詳」を除く。）に対する労働力（就業者と完全失業者の合計）の割合。	20

第3期幸手市まち・ひと・しごと創生総合戦略

令和8年2月 策定

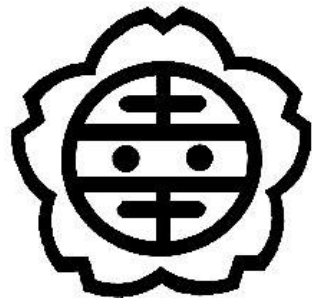
発行：幸手市

編集：幸手市総合政策部政策課

住所：〒340-0192 埼玉県幸手市東4-6-8

電話：0480(43)1111（代表）

ホームページ：<https://www.city.satte.lg.jp/>



幸手市